

日韓みらい若者支援事業

2019~21年度 活動報告書

～日韓のよりよい未来に向けた、私たちの学びの共有～

発行日 2023年3月31日

編集・発行

認定NPO法人 アジア・コミュニティ・センター21
NPO法人 Asia Commons 亜州市民之道

jk-mirai@acc21.org
<https://www.acc21.org/>
<https://asiacom.exblog.jp/>

編集：下村京子

編集デザイン：有限会社プリントヒル

この報告書は、2022年度に(一財)大竹財団の助成を受けて発行しました。



ごあいさつ

「日韓みらい若者支援事業」
運営委員代表 **伊藤道雄**

(認定 NPO 法人 アジア・コミュニティ・センター 21 代表理事)

「日韓みらい若者支援事業」は、日本と韓国の創造的な未来の関係づくりに参画しようとする若者を支援することを目的に、2019年11月に開始しました。日韓両国の若者、特に日本の若者に日韓関係の歴史を改めて学習する機会を提供し、在日コリアンの参加を得て、日韓の若者の間で歴史認識の共通基盤ができる活動を行っています。

これまで学習会や“語り場”（本書3ページ参照）において、朝鮮半島と日本との2千年近い交流の歴史を把握しながら、近現代に起きているさまざまな問題の背景と実態について、研究者や活動家にお話しいただき、参加者が抱いた疑問や問題意識を率直に話し合う機会を提供しています。具体的には、日韓両国の歴史教科書のコンテンツの違い、日本各地にみられる朝鮮半島と関係の深い文化（食、陶器、石人像など）、平和構築におけるスポーツが果たす役割、韓国の市民活動、在日コリアンの人たちが直面する課題などについて参加者たちは学習してきました。そして、私たちは同時に日韓関係を学ぶ学生団体間の情報交流を促進してきました。

事業名称にあるように、本事業は若者を対象としています。しかし実際には幅広い年齢層の方々が参加され、多様な経験や考え方を共有する場となっています。

本事業は、日韓関係団体が日本国内に100団体前後ある中で、いわば“新参者”である私たちが、長年の根深い問題について語り発信してよいのか、という不安を抱

目次

運営委員代表あいさつ.....	1-2
「日韓みらい若者支援事業」について.....	3
学習会	
在日が目ざす日韓共生社会～日韓みらい若者支援事業に期待すること～.....	4-6
日韓に関わる学生団体の相互学習会（2020年度）.....	7-17
日韓に関わる学生団体の相互学習会（2021年度）.....	18-23
孫基禎の生き方から学ぶ ーオリンピックとは？ 日韓関係の再構築と今後の青年への期待ー.....	24-27
対談 「スポーツは国境を越えて～サッカーと 安英学の半生を追って～」.....	28-33
“語り場”活動	
韓国の歴史教科書について知ろう！.....	34-39
あなたの身近にある、日本と朝鮮半島との文化的つながり ～K-POPの国の文化を知ろう～.....	40-45
記事「 ^{イッダ} 일다」を通して韓国の市民活動を知ろう.....	46-51
フォーラム	52-58
日韓関係ダイレクトリーについて.....	59
参加者募集、ご協力をお願い.....	60
共催団体について.....	61

この冊子の文中にある学生の学年等は、イベント開催時のものです。

※ 本冊子で記載している「在日コリアン」「在日韓国人」「在日朝鮮人」「朝鮮人」「朝鮮籍」「朝鮮籍の在日コリアン」等の用語は、講師や参加者の発言を記載しています。

えながらのスタートでした。あれから3年が経過し、参加者の皆さんからの温かなメッセージをいただくたびに、一步を踏み出してよかったと確信しております。

事業計画を練る中で、時に叱咤激励、協力して下さった日韓関係団体、そして研究者や活動家の方々に厚く感謝申し上げます。講師、リソースパーソン、コメンテーターを務めていただいた方々、学習会やフォーラムなどで発表して下さった参加者の皆さんにも、御礼を申し上げます。

この小冊子は、事業開始から2022年4月までの活動の内容をまとめたものです。紙面を通して、活動に参加して下さった方々の学びと“声”を、さらに多くの方々と共有することを企図しています。読者の皆さんには各活動の詳細をお伝えしたかったのですが、紙幅の関係で要点をまとめた形になりました。

本小冊子をお読みにになり、関心をおもちになった方々、ぜひ「日韓みらい若者支援事業」の活動にご参加ください。新たな発見の連続で、あなたがつくる日韓の未来が、より輝きを放つものとなるでしょう。

「日韓みらい若者支援事業」運営委員会

伊藤道雄 (ACC21 代表理事)、麻生水緒 (アジアcommons理事長)、
鈴木真里 (ACC21 副代表理事・事務局長)

事務局 (ACC21)：堀部佳奈 (～2022年6月)、

シャープ茜 (2022年6月～)

「日韓みらい若者支援事業」について

事業名：日韓みらい若者支援事業

実施団体：認定NPO法人 アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21)
NPO法人 Asia Commons 亜州市民之道 (アジアcommons)

事業開始時期：2019年11月 (2023年3月末現在、継続実施中)**

事業の目的：繰り返し起きる日本と韓国の対立を乗り越えるため、朝鮮半島 (韓国・北朝鮮) にルーツをもつ若者たち (在日コリアン) の参加も得て、日本の若者たちが日韓関係の歴史を学び、韓国の若者たちとの間で共通の歴史観を持てるようになり、創造的な新しい関係を志向する人材が育つのを支援する。同時に、若者の間のネットワークづくりを支援する。

事業の内容：若者を中心とした次の活動を行う。

1. 学習会

学習テーマに精通する講師の講演を基軸に学習する。学習方法はできる限り参加型とする (年間4～5回)。

2. “語り場”

上記学習会活動で取り上げたテーマのうち、若者たちが希望するテーマを選び、各15～20名で構成される数グループをつくり、さらなる理解を深める勉強会を年間各3～4回行う。必要に応じリソースパーソンを派遣する。

3. フォーラム (年1回)

“語り場”活動の参加者から50～60名の参加を得て、外部専門家による基調講演と“語り場”グループ代表者、日韓関係団体による発表を受けて自由討論の場とする。

4. ダイレクター、冊子の発行

「日韓関係ダイレクター」をはじめ、本事業の活動で得た学びなど成果をまとめた小冊子を作成、発行・普及する。

5. 日韓の若者・関係団体間の訪問、対話交流

関心をもつ若者を韓国に派遣し、韓国の若者との対話と相互理解促進のための交流を行う (2023年度～)。

** 2019年11月～2022年3月の活動は、本事業への個人からの指定寄付、(一財)MRAハウスからの助成により実施されました。

2019年度 学習会 2019年11月6日開催

「在日が目ざす日韓共生社会 ～日韓みらい若者支援事業に期待すること～」

今回の学習会は、一般社団法人KJプロジェクト代表理事の裴哲恩^{ペーチョルン}さんをお招きし、在日韓国人^{*1}2世としての葛藤や人権を守る取り組みなど、ご自身の経験と想いを語っていただきました。

本名を名乗れない人々

まず裴さんが取り上げたのは、「なぜ一般の日本人と韓国人の溝が埋まらないのか」という問題点でした。日韓関係の改善を願ってご自身でも講演会やマスコミ関係者と情報交換をしてきたものの、その溝は一向に埋まらないと言います。このような状況に対して裴さんは、日本人は在日韓国人の問題を「関心外」として捉えている点を指摘しました。

一方、在日韓国人は、よほど日本人と仲良くなれない限り、身の上話をすると関係が崩れてしまうのではないかと「恐怖」があるということを知っていたきたい、と語りました。

日本人は日本に生まれてきたことに疑問を感じることはない。しかし“在日”は、物心ついたところから「日本で生まれたのに、日本語しか話せないのに、なぜ“日本人”ではないのか」と思う

「昔、在日の子がクラスにいました。いじめを受けていたようには見えませんでした。自分の親から「気を付けた方がいいよ」と言われたことがあります。小さいころは、親が言っていることが正しいと思ってしまう。でも、私たちの世代は自分たちで情報収集をして判断したいと思いました」

参加者（大学生）

と言います。

裴さんは、昔、電車に乗っていたときに、近くにいたサラリーマンが「〇〇さんは在日らしいよ」とひそひそと話していたのを聞き、「隠れて生きていても必ずばれてしまう、そして悪い秘密を見つけたように陰口をたたかれる」と感じたそうです。

なぜ自分が「在日である」と言えないかということ、差別や偏見にさらされる恐れがあるからです。



この日の参加者は20人。裴哲恩さんはホワイトボードに「一期一会」と書いてから、お話を始めました

指紋とられる屈辱

14歳（中学2年）の時に、外国人登録をするように父親に言われた裴さんは、市役所で手続きを進めると、別室で指紋をとられました。それは、まるでやましいことをやったとみなされているかのようなものでした。

「当時、指紋をとられるということは、何を意味するのかわかりませんでした。担当官に左手を取られ、“黒いインクをべったり付けた上で半回転させろ”と言われました。このとき私は強制力のもつ力を感じ、なぜ別室で隠れてこんなことまでさせられるのかと思いました。

当時、外国人登録は3年ごとに行われ、14歳、17歳、20歳で登録が必要でした。20歳の時は大学生で、“これ以上隠れたくない”という想が強くなっていました。大学の韓国社会文化研究会という在日のサークルの存在に影響を受けたからです。そのサークルの先輩たちに出会わなければ、私は今日、ここに立っていないかもしれません。もしかしたら、日本人になって韓国人を差別する側に回っていたかもしれません。

『差別というのは、逃げていても解決しない。差別があったら、そこに立ち向かわなきゃならない。権利は棚ぼたみたいには得られない』という先輩の言葉が強く印象に残りました。ちょうどそのころ、地元で牧師の娘が指紋押捺を拒否したというニュースを見て、“俺がやるのはこれだ”と思いました」

裴さんと仲間たちは動き始めました。

指紋押捺の義務を廃止する法改正を求めるには、在日の人たちには選挙権がないため、日本人の署名を集めなくてはなりません。韓国民団^{*2}は1983年に100万人署名運動を開始しました。最終的に182万もの署名が集まりましたが、政権

党の自民党は署名を受け取りませんでした。署名運動がためならと、指紋押捺を拒否する在日の人たちが増えました。

熱い想いが法を動かした

1985年当時、3年おきだった外国人登録は5年おきが変わっており、ほとんどの在日の登録が切り替わる時で、法改正要求が受け入れられるか否かの正念場だったそうです。

「ある市で押捺拒否者がでたら市長が警察に告発し、調査に入りますが、当時の川崎市長のように、外国人であっても地域に住む市民だ、告発しないという人もいました。そういう世論もあり、次第に法改正に向かっていくのを目の当たりにしました。押捺拒否したために逮捕され、両手足20本の指紋をとられた仲間がいたり、裁判で闘って高等裁判所では勝ったけど、最高裁でひっくり返されたこともありました。

そういう痛みを超えて次に行ったのが、神戸から東京まで歩く“人権行脚”でした。最後は全国7カ所で一人10日間程度の断食を実行。日韓政府の話し合いで、指紋押捺は最初の1回だけにしようとなりましたが、その“最初の1回”がダメなんだと対峙しました。

そして2000年、ついに指紋押捺にかかる法律が廃止され、2012年には外国人登録法も廃止になりました。これは在日の人々と、運動に連帯した日本人の熱い想いが法改正を導いたことを示していました。

このような運動を通し、日本の中に人権という考えが定着してきたと感じました。しかしその一方で、ヘイトスピーチを聞いたときや選挙のときに、選挙権がない在日のこの国での居場所のなさを感じます」

最後に斐さんは、「“あなたがあなたであるように、私も私であっていい”という共通のスタートラインに、まずは立つべきではないでしょうか」と結びました。

※1 在日韓国人：2022年6月末現在、在日韓国人の数は約41万2千人（法務省）。

※2 韓国民団：1945年8月15日、日本の敗戦により韓国が解放（光復節）された当時、在日朝鮮人は約230万人いた。帰国を望む人たちの便宜を図るため、多くの在日団体が結成されたが、1945年10月、それらを全て総括してできたのが、いわゆる朝連（在日本朝鮮人連盟）。その後、主義主張の対立から朝連から離れていった人たちが設立したのが韓国民団という。

2020年度 第1回学習会 2020年12月28日開催

「日韓に関わる学生団体の相互学習会」

オンラインで開かれた今回の学習会では、これまで日韓交流活動を行ってきた3つの学生団体が交流の機会をもちました。

団体の紹介

日韓学生フォーラム（第37期）（発表者：玄）

当団体は1986年に日米学生会議の有志メンバーが設立しました。姉妹団体である韓日学生フォーラムのメンバーと共に、英語での直接対話を目指しています。

メインフォーラムは毎年8月、2週間かけて日韓のどちらかで開催される活動で、両国の学生が寝食を共にします。この中で行われるディスカッションテーブルでは、5～6人のグループに分かれて、歴史、社会、文化、環境などのテーマについてディスカッションします。昨年は、「日韓基本条約の問題点と現在に及ぶ影響」（歴史班）、「日韓の地方銀行の特徴とそれぞれの役割」（経済班）、「日本と韓国の男女平等について～家事文化の違いをもとに～」(社会班)、「SDGs^{*1}におけるファッションの役割～日本と韓国の事例を考える～」(環境班)といったテーマを取り上げました。

シンポジウムでは日韓のメンバーが共同で発表を行います。4～5名の日韓メンバーで事前に準備をして、メインフォーラムで約1時間のプレゼンテーションを行います。また文化交流・フィールドトリップというプログラムでは、観光名所を訪問します。

国内活動としては、毎月2回ほどメンバーが集まり、日韓関連の文献を読んで

参加者

日韓学生フォーラム

ヒョン キジョン
玄 基正（国際基督教大学）

アソウ エリ
麻生 えり（明治大学）

ヤマモト ルナ
山本月（白百合女子大学）

日韓学生未来会議

アサダ ユウタ
朝田航太（聖マリアンナ医科大学）

オクシマジュン
奥島潤（法政大学）

ツクハ マリモ
筑波まりも（立教大学）

同志社 KOREA 文化研究会

パク ハナ
朴夏奈（同志社大学）

李宗海（同志社大学）

日韓みらい若者支援事業運営委員

イトウ ミチオ
伊藤道雄（ACC21 代表理事）

アソウ ミチ
麻生水緒（アジアコモンズ代表）

ホリベ カナ
堀部佳奈（事務局担当）

ヤマサキ セイイチ
山崎精一（オブザーバー参加）

ディスカッションをし、有識者を招いた講演会も実施します。毎年3月と6月には国内合宿を行い、メインフォーラムに向けた準備を進めます。

日韓学生未来会議（第16期）（発表者：朝田）

2006年、日韓経済協会のOB／OGが交流を続けたいという想いの下、当団体は設立されました。姉妹団体として韓国側に韓日学生未来会議があります。活動理念は「未来の日韓を担う人材として、草の根交流を代表し、責任をもって継続する団体」です。

私たちは年に一度、日韓学生未来会議を4泊5日の合宿形式で行います。参加人数は約40名。目指すところは「学生の企画の下で、学生の運営の下で、学生の参加の下に行われる会議」です。「次世代の新産業」「私たちに身近な社会問題」「日韓合同の歴史教科書づくり」といったように、毎年テーマを設定しています。

定例会は日本側のメンバーが韓国について学ぶことを目的に、月に2回開催しています。勉強会や韓国料理をつくる企画などもあります。

以上の他に、日韓経済人会議、日韓交流おまつり、日韓大学生大討論会、日韓国交正常化50周年記念シンポジウムなど、外部のイベントへの参加や他団体との交流活動も行っています。

同志社 KOREA 文化研究会（発表者：李）

当会は、同志社大学や周辺の大学に所属する学生によるグループです。主な活動は、同志社大学の部室で行う勉強会、講師を招き開催する「日朝関係史講座」です。その他に、食事会などを通じたメンバー間の交流や、立命館大学、京都大学にある他サークルとの交流も行っています。

日朝関係史講座は通常、会場を借りて30人ほどの規模で行っています。2020年度は講師による講義をオンライン配信しました。カナダ、オランダといった海外からの参加もあり、200人以上の参加者が集まりました。

◎質問と意見交換

伊藤：メンバーについて教えてください。

玄：21名から応募があり、そのうち16名（うち4名が男子）が2020年度メンバーに選出されました。学部・学科はさまざま、韓国、特に日韓の歴史認識に関心のあるメンバーが多いです。

筑波：地方からの参加者はどこで活動するのですか。

玄：2019年度は関東、関西に分けて活動しました。年に2回の合宿はメンバー



日韓学生フォーラムの玄さんの発表より

全員が集まります。2020年度はすべての国内活動をオンラインで開催することを検討しています。

伊藤：日韓学生未来会議は日韓の政治的、経済的影響を受けませんか。

朝田：地域的な包括的経済連携の合意など、日韓に関わる動きについてはメンバー間で共有しています。団体としては政治経済の状況にかかわらず、草の根交流を大事にしており、政治的経済的な考えは個人のうちにとどめています。

山崎：一般市民との議論もしたいと思いますか。

朝田：これまでは学生中心に活動してきましたが、コロナ禍に在宅勤務となり、日中時間のとれる社会人たちと議論する機会がありました。議論や交流の成果発表の機会は今後の課題ですね。

玄：団体の活動について報告書にまとめているところです。

李：日韓関係が悪化したときこそ、活動する価値があるのではないのでしょうか。2019年秋ごろに徴用工問題^{*2}に関する学習会をSNSで告知した際、ネット右翼^{*3}の人たちからコメントがありました。

※1 SDGs：2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。

※2 徴用工問題：第二次世界大戦中に日本が朝鮮半島から人を連れてきて徴用（強制労働）したことに対し、賠償金を韓国人々が求めている問題。日韓で意見が分かれ国際問題となっている。

※3 ネット右翼：インターネット上で特定の国や人種に対して差別的発言を繰り返す人々。

「日韓に関わる学生団体の相互学習会」

オンラインで行われた本学習会の第一部ではエッセイストの^{カネムラ シオン}金村詩恩さんによる講演、第二部では学生団体間の相互学習を行いました。

制度の背景を考えてほしい

第一部の講演「多様性の中の在日コリアン～置き去りにされた在日の歴史～」では、講師の金村詩恩さんが出演し2018年に放映されたNHKニュース「おはよう日本」のビデオを視聴しました。

金村さんは当時を振り返り、違和感を覚えながら番組に出演していたと話しました。番組では日本は単一民族だという表現がありましたが、力道山さん、張本勲さん、王貞治さんなど、異なるルーツをもつ人たちは昔から日本社会に存在しています。

「番組では異なるルーツをもつ人たちをめぐる諸問題が、今、新たに起きているというふうに見せていますが、果たしてこれは新しい問題なのだろうか」と問いかけ、番組制作側にはこの問題を現代の問題として取り上げたい、という意図があったことを話しました。

また、日本の入管^{*1}が世界から非人道的な施設だと非難されている件についても触れました。

金村さんの説明によると、例えば、法務省（当時の法務府）の入国管理局ができた際、そこに内務省の特高警察と呼ばれていた秘密警察の一部局だった朝鮮人

参加者

日韓学生フォーラム

^{ヒョン キジョン}玄基正（国際基督教大学）

^{アサダ コウタ}麻生えり（明治大学）

^{ヤマモト ルナ}山本月（白百合女子大学）

日韓学生未来会議

^{アサダ コウタ}朝田航太（聖マリアンナ医科大学）

^{ツクバ}筑波まりも（立教大学）

同志社 KOREA 文化研究会

^{パク ハナ}朴夏奈（同志社大学）

日韓みらい若者支援事業運営委員

^{イトウミチオ}伊藤道雄（ACC21 代表理事）

^{アソウ ミスズ}麻生水緒（アジアコムズ代表）

^{ホリベ カナ}堀部佳奈（事務局担当）

^{ウエヤマ ユリカ}上山由里香

（韓国近現代史研究者・オブザーバー参加）



課から多くの職員が異動した事実がありました。そのような背景を知っていると、旧植民地時代の人たちを取り締まる施設だったところで働いていた人たちが、取り締まる対象が変わっただけで、今も同じようなことを行っているにすぎないと考えることもできる、とのことでした。

番組の終盤でアナウンサーが「個人一人ひとりの力と、一人ひとりがどう考えるかが大事」と発言していた場面について、金村さんは「一人ひとりが気を付けて行動するだけでは問題は解決しない。制度が変わらないといけない。世界や社会がどのようにできているのかを考えてほしい。普段、当たり前だと感じている制度がどのようにできているのか、なぜそのようにつくられているのかを考えてほしい」と述べました。

違和感について話し合う

講演の後、質疑応答が行われました。

朴：自身も在日朝鮮人として、番組には多くの違和感を覚えた。特に植民地時代のことを一切出さずに問題をひとくくりにされてしまうことに違和感を覚えた。番組出演後、金村さんが何かアクションを起こしたか聞きたいです。

金村：（植民地時代とのつながりは）講義や執筆活動のテーマに取り上げました。アメリカのある作家が「怒りはクリエイティブにならない」ということを言いましたが、怒りや違和感をそのままにせず、問いを投げかけていくことが大事



金村さん（上段右から2人目）は日本国籍の在日コリアン3世。著書に『私のエッジから観ている風景 日本籍で、在日コリアンで』（ぶなのもり）がある。『現代思想』『現代ビジネス』などに、旧植民地出身者の子孫・移民・クォーター・“帰化者”の日常風景から見た社会をテーマに寄稿している

なのではないでしょうか。

山本：ビデオの中でたびたび「知ってほしい」という言葉がありましたが、「知ること」とは具体的にどういうことでしょうか。

金村：自分とは異なる他者がいる、ということ認識することです。私は埼玉県に住んでいますが、クルド人が住む地域や中華系の人たちが住む地域に出かけて、一緒に食事をしたり、生活を共にしてみたりします。重要なのは、そうした自分とは異なる人たちが存在するんだと認識することではないでしょうか。

玄：番組の中でさまざまな境遇の人たちが「在日コリアン」「ハーフ」などとカテゴリー化されていたことに違和感を覚えました。こうした違和感、怒りを感じることがアイデンティティを形成するののかも考えました。

金村：自分の中で違和感をもつことにとどまらず、自分以外にも同じように考える人がいるだろうという「希望」をもつことが大切だと思います。

筑波：なぜ、こうした問題を、今、メディアが取り上げていると思いますか。

金村：企業や世の中のお金を動かす人たちが、人材を欲しがっているという現状が理由ではないでしょうか。簡単に言ってしまうと、お金の儲けと、こうした（労働力不足や日本に住む人々のルーツの多様性などの）世の中の動きに乗じて、自分たちの言論の場を広げたいという意図があるのではないかと感じます。

教育をどうしたらいいのか

第二部の学生団体間の相互学習では、学生同士、自由な意見交換を行いました。玄：日本では差別の問題は現在の問題として捉えられる傾向がありますが、その内容をひもといてみると、それは過去の歴史とつながっています。歴史を学ばない限り、未来につながる議論や差別問題の解決はできないのではないのでしょうか。

朴：多様性のある学びの場をどのようにつくるかが課題だと考えます。教育の現場に多様性の考え方を組み込んで、未来志向をもつ日本社会へとつなげたい。

玄：教育の場では、一面のみに着目し教えるのではなく、さまざまな角度からさまざまなグループの人たち（例えば性的マイノリティ、在日外国人など）について教えることが大事だと思うが、難しいことだと思う。

筑波：教育の現場でどのように教えるかは大事。同時に、子どもの周りにいる大人の言動も子どもに大きく影響すると思うので、大人たちが自分の言動に気を付けることも重要ではないでしょうか。

朝田：特に学校において、同調主義の傾向があるのではないのでしょうか。日本は自分の意見を発信する若い人が少ないと感じています。

筑波：差別や多様性といったテーマについて、関心のない人々を巻き込みにくいことに、もどかしさを感じています。関心のない人々を巻き込んでこそ、男女差別など具体的な問題が解決するのではないかと思います。

朴：どれだけマイノリティの人たちが（差別などの）問題を知ってほしくても、マジョリティの人たちに知ってもらうことが難しい。問題を知ってもらうためには、まず、マジョリティの人たちが、自分たちがどれだけマイノリティの人たちに対して害を与えているかを自覚するところから始まるのではないのでしょうか。それは人種差別に限らず、福島（原発）問題など、地域が抱える問題なども同じです。こうした問題を自覚する教育が必要ではないのでしょうか。日本の教育現場では、地域の人々や外から入ってきた人々を無視し、個々人の違いや格差には触れず、「標準」があるかのような、国家主体の教育が行われているのではないかと思います。

※1 入管：法務省の内部部局だった入国管理局の略称。2019年に法務省の外局、出入国在留管理庁になった。入管の収容施設内での非人道的な対応が問題視されてきた。

2020年度 第3回学習会 2021年3月27日開催

「日韓に関わる学生団体の相互学習会」

今回の学習会は、韓国近現代史研究者の^{ウエヤマ ユリカ}上山由里香さんを迎え、「韓国の歴史教育と歴史教科書」をテーマに講演していただきました。

韓国との出会い

上山さんが初めて日韓関係に関心をもったのは、大学生だった2002年ごろ。当時は小泉首相が初めて日本の首相として北朝鮮を訪問したことが盛んに報道されました。日本と朝鮮半島の間で、過去の歴史をめぐる解釈に違いがあることに関心をもち、どのようにしたら北朝鮮に行けるのかを調べたことが、彼女にとっての出発点でした。

メディアが伝える韓国が本当の姿なのかという疑問から、問題の本質を自ら調べる必要性を感じ、韓国の歴史教育、歴史教科書の実態の把握を始めました。

上山さんは、1. 基本的な歴史事実を知り、国・個人の間で歴史的事実に対する認識や解釈が異なることを理解し、2. 違いが生まれる原因を知る。そして3. 異なる認識をもつ背景について理解をする、という3段階で歴史問題を考えています。以下は講演の抄録です。

歴史教育と歴史認識

過去に対する記憶や体験は時間の経過とともに薄くなります。それが曖昧にならないよう、再現し、継承していく作業が歴史教育を通して行われます。歴史学者の大日方純夫先生の言葉を借りると、歴史教育は家庭やメディアを通じて行われることもあります。これを広義の歴史教育とし、教科書をツールに小中高校でより系統的、組織的に行う学校教育を狭義の歴史教育として捉えます。

歴史認識も広義と狭義に分けられ、過去に対する認識一般を広義の歴史認識とし、日本軍「慰安婦」、徴用工といった問題化した過去の出来事は狭義の歴史認識と捉えます。こうした狭義の歴史認識は1990年代から韓国で注目されるようになり、その後日本でも広がりました。



上山さん（上段右から2人目）の専門は、韓国の近現代史、歴史教育、歴史教科書、人物史など。日中韓3国共通歴史教材委員会のメンバーとして『新しい東アジアの近現代史（上・下）』（社会評論社、2012）の編纂に携わり、新しい教材の編纂にも取り組んでいる。この日のオンライン学習会には、NGO関係者や個人など17名が参加した

歴史教科書が問題化するわけ

前提として、教科書は単なる出版物ではなく、国家によって規定された基準（日本でいう学習指導要領）に基づき編纂され、公的な認定を受けて使用されます。そのため、歴史教科書の内容は一国の歴史観を代弁し、国としての歴史観だとみなされることも多くあります。これが歴史教科書が問題化する要因の一つです。

韓国の歴史教科書、歴史教育

韓国の歴史教育は、小学校では5～6年生の社会科で週6単位、中学校では2～3年生の歴史の授業で週5単位（ここには道徳の時間も含まれる）学びます。高校では必須科目として「韓国史」、選択科目として「世界史」「東アジア史」を学んでいます。

韓国の教科書は「国定教科書^{*1}」、「検定教科書」、「認定教科書」の3種類があり、国定よりも検定や認定の方が民間主導型といえます。

現在は小学校の社会科教科書は国定ですが、2023年から検定教科書へと移行される予定です。中学校、高校の歴史教科書は検定教科書が使われています。ちなみに、認定教科書は芸能（美術、音楽）や技術科目の教科書や漢文の教科書などで使用されています。

また、韓国の「教育課程」は日本のように改訂の周期が一定ではなく、政権交

代後にその政権の方針に伴って改訂が行われる場合が多いです。

「韓国史」教科書の特徴

現在、韓国の高校で使用されている「韓国史」教科書の構成は、1. 大きなテーマから導入、2. テーマ別学習、3. プロジェクト活用（考えを発展させる仕組み）、4. 大きなテーマでまとめる、というスタイルになっています。

主な特徴は次のとおり。

1. 主要テーマで構成されており、分厚い教科書（約300ページ）の半分以上を近現代史で占めている（現行の金星出版社「韓国史」の場合：前近代（20テーマ）、開港期（18テーマ）、日帝強占期（18テーマ）、光復以降（18テーマ））。
2. 4段階（導入→本文学習→整理→探求）で構成されている。問いかけで始まり、特別な答えが提示されているわけではない。
3. 教科中心評価に活用しやすい。
4. 資料が豊富であり、資料がないと本文を理解できない構成となっている。
5. 社会の上層部にいる特定の人々ではなく、「平凡な人々」「普通の人々」の暮らしぶりや感じ方に注目している。

質疑応答

学生A：近現代史の分量が日本と韓国で大きく異なることに驚きました。日本の歴史教科書は資料掲載部分が不十分なため、学生に歴史認識が根付かず、SNSやフェイクニュースに惑わされるのではないのでしょうか。

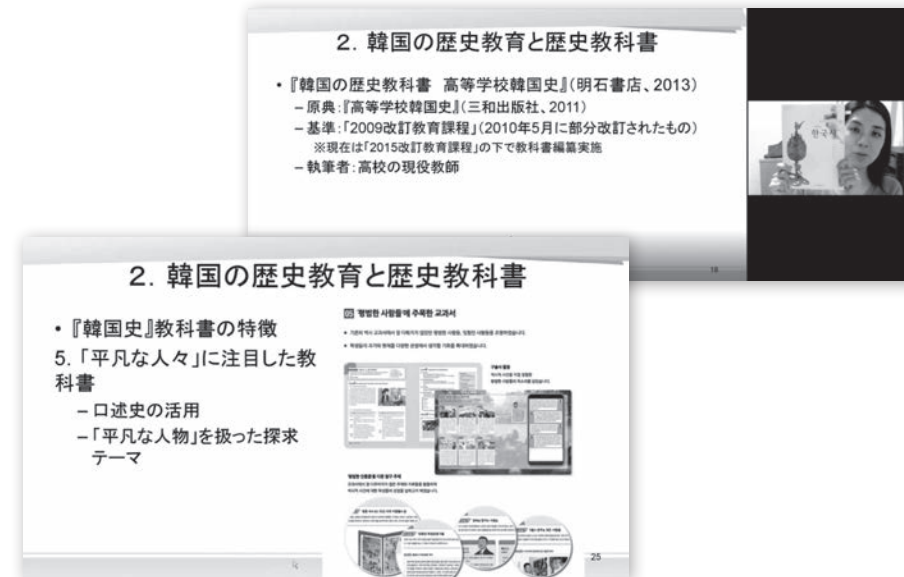
上山：韓国の歴史教科書は資料中心であり、導入や見せ方が興味深いです。日本では、似たような構成でつくられた教科書が「学び舎」より発行されていますが、広い普及には至っていないのが現状です。

学生B：政権により教科書が変わる頻度が知りたいです。

上山：李明博^{イミョンバク}、朴槿恵^{パククネ}、文在寅^{ムンジェイン}政権という最近の政権交代において、教育課程が改訂され、教科書も改めて編纂されています。政権ごとに各政権の思想が反映されやすい傾向があります。

具体的には、朴政権のときに歴史教科書を国定化するという事態が起き、教育課程が改訂され教科書も編纂されました。叙述内容の事実誤謬が多いことに加え、偏った歴史叙述で構成されている内容に対し、歴史学者や現役教師、そのような教科書を使用する学生などからの強い反対にあい、結果的に採択されることはありませんでした。

その後、文政権になってから国定教科書は廃止され、新たな教科書が編纂さ



れました。その教科書は2021年3月より学校現場で使用されています。政権と教科書の関係でいえば、韓国の教科書は日本の教科書より劇的に変化しやすいという特徴があります。

社会人C：韓国の教科書では、現代の日本についてどういう叙述をされているのでしょうか。

上山：韓国史の教科書では植民地時代について多くの紙面が割かれています。しかし、1945年以降の日本との関係は、ほとんど書かれていません。地域史という枠組で構成されている東アジア史の教科書には日本に関する叙述がある程度確認できます。

主催関係者D：韓国の教科書の方針は、豊富な資料を提示して生徒に考えさせるため、ある意味未来志向的だと思いました。教科書が若者に与える影響についてどのように考えますか。

上山：教師の力量と受け手にもよりますが、現在は特に学生にとってメディアやSNSから受ける影響の方が大きいことは、日本だけでなく韓国でも同じです。一概に教科書による学習のみが若い人たちに大きな影響を与えているとはいえないものの、一定の影響はあるのではないかと思います。

※1 国定教科書：教育部（日本でいう文科省）が編纂し、委託された出版社1社だけが販売できる。

2021年度 第2回学習会 2022年2月24日開催

「日韓に関わる学生団体の相互学習会」

今回の学習会では、早稲田大学公認のサークル、日本コリア未来プロジェクトのメンバー3名と日韓みらい若者支援事業運営委員の2名が、互いの活動について話し合いました。

現在の活動はオンラインが中心

日本コリア未来プロジェクトは早稲田大学公認のインカレ（複数の大学から参加可能なサークル）で、メンバーの半数は早稲田大学以外の学生です。団体のLINEグループに参加しているメンバーは60人ほど。毎週行われる活動には全員が参加するわけではなく、一部のメンバーが参加しています。毎年3～5人の運営メンバーが中心となり、団体の活動方針を決めています。

活動内容は次のとおり。



今回の学習会もオンラインで実施。上段左から伊藤、堀部、北川さん。下段左から中川さん、森部さん

■勉強会（週1回）

特定のテーマに沿ってプレゼン、ディスカッションを行う。テーマはメンバー全体にアンケートをとるなどして、半分は運営メンバー、もう半分はメンバーの希望で決めている。朝鮮大学校^{※1}との関わりがあり、在日コリアンの方を招いて話してもらうこともある。その他、在日コリアン文学、歴史認識（人気は高いがテーマも広く、扱いが難しい）、経済、観光も扱っている。

■38度線平和活動

韓国の延世大学^{ヨンセ}韓日交流サークルや大学の元教授との交流があり、始まった活動。平和「ななむ」会の「時代の被害を受けた人びと」との交流、農作業体験などを行う宿泊型の活動。渡航が前提となるので、今後の開催については未定。2022年2月現在、活動は休止中。3人の中では森部さんだけが参加経験あり。

■その他交流活動

韓国へ渡航ができない今もメンバー個人のつてやSNSを通じて、韓国にいながら日本人との交流を希望する韓国人学生を募集し、交流活動を行っている。ソウル外国語大学の学生が多い。

メンバーの関心は

伊藤：団体としての今後の展望、2022年度幹事長を務める中川さんの問題意識について知りたいです。メンバーの間で最も関心の高い学習テーマは何ですか。

中川：具体的な引継ぎはこれからです。活動方針は、コロナの状況を見ながら判断していきたいと思います。

北川：歴史的な問題（独島^{トクト}／竹島の問題^{※2}）に関心があります。

中川：自分たちにとって身近な分野、例えば食文化などに関心があります。

森部：日本コリア未来プロジェクトとして、リソースがなくて実現したくてもできなかったことがいくつかあります。以下で共有します。

1. 歴史認識の問題：話し合う角度が多すぎるのと、メンバー一人ひとりの関心が異なる。偏りがなく、ある程度知識をもったファシリテーターが見つからなくて、実現できていない。過去には映画「スウィング・キッズ^{※3}」を見る

参加者

日本コリア未来プロジェクト

中川晋実^{ナカガワシンジ}（早稲田大学 2022 年度幹事長）

森部結菜^{モリベユナ}

（早稲田大学 2020、2021 年度幹事長）

北川亜未^{キタガワアミ}（早稲田大学）

日韓みらい若者支援事業運営委員

伊藤道雄^{イトウミチオ}（ACC21 代表理事）

堀部佳奈^{ホリベカナ}（事務局担当）

企画は行ったが、メンバーの反応はいまいちだった。核心に触れる話を求めていたのかもしれない。

2. ごみ問題、サステナビリティ関係：韓国はフードデリバリー文化があり、韓国におけるごみ問題やサステナビリティに関するテーマで勉強したい。
3. 在日コリアンが住む地域やコリアタウンに出かけていくフィールドワーク。

会合では以上の他、ACC21 から、日韓みらい若者支援事業のこれまでの活動、2022 年度以降の“語り場”活動計画を紹介しました。また3月にも他の学生団体と一緒に学んで学ぶ学習会を企画予定であることにも触れました。

-
- ※1 ^{チョリハクキョウ}朝鮮学校は、幼稚園、初級・中級・高級学校、大学校のことを指し、民族教育を実施する各種学校。1956年に設置され、本部は東京都小平市にある。大学校は日本における朝鮮学校の最高教育機関だが、文部科学省から大学としての認可を受けていない。
 - ※2 独島 / 竹島の問題：日本の隠岐諸島と韓国の鬱陵島との間に位置する島しょ（日本名：竹島、韓国名：独島）をめぐる日韓両国間の国際紛争。
 - ※3 スウィング・キッズ：朝鮮戦争下の捕虜収容所を舞台に、国籍も年齢も異なるタップダンスチームの奮闘を描いたカン・ヒョン Chol 監督による作品。2018 年公開。



2021 年度 第 3 回学習会 2022 年 3 月 9 日開催

「日韓に関わる学生団体の相互学習会」

オンラインで開催した今回の学習会には、3 つの学生団体から 4 名が参加し、活動内容の紹介と意見交換を行いました。

団体の紹介

日韓学生フォーラム（発表者：黒田）

日本初の国際的學生交流プログラムである日米学生会議から派生し、1986 年に設立された団体です。韓国に姉妹団体「韓日学生会議」があり、彼らと連携し活動しています。使用言語は原則英語です。

年間スケジュールは、毎年 1～2 月にメンバーの顔合わせを行い、月 2 回程度の勉強会活動がスタートします。3 月と 7 月には日本国内で合宿を行います。他に韓国側メンバーとの交流活動、外部講師を招いた講演会などを行い、団体のメインイベントであるメインフォーラムに向けて準備を進めます。

第 37 期のメインフォーラムは全 2 週間、オンラインで開催しました。第 38 期については日本で対面開催を予定しています（2022 年 8 月開催予定）。主なプログラムとしては、シンポジウム、ディスカッションテーブル（分科会）、東京、大阪、金沢観光やホームステイ体験などを行うフィールドトリップがあります。

ディスカッションテーブルでは、メンバーは異なるテーマの分科会に分かれ、テーマについての発表やディスカッションを通して、日韓関係について理解を深めます。例年、関心のあるテーマとして、徴用工問題があります。シンポジウムでは 6 人ほどがグループを組み、特定のテーマについて発表、議論を行います。第 38 期のテーマは「政治 - 反日・反韓問題」「歴史 - 日韓の歴史教育（植民地期など）」「社会 - 少子高齢化と労働人口減少」「文化 - 日韓文化の違い」「科学 - 現代（コロナ禍後）における科学変化」です。

参加者

日韓学生フォーラム

^{クロダケン斗}黒田健斗（大阪大学）

日韓学生未来会議

^{アイダトミコ}相田冬実子（神田外語大学）

^{シバヌマセナ}芝沼聖奈（名古屋工業大学）

日本コリア未来プロジェクト

^{ナカガワシンジ}中川晋実（早稲田大学）

日韓みらい若者支援事業運営委員

^{イトウミチオ}伊藤道雄（ACC21 代表理事）

^{ホリベカナ}堀部佳奈（事務局担当）

日韓学生未来会議（発表者：芝沼）

日韓高校生交流キャンプの参加者によって2006年に設立されました。会員数は26名です。姉妹団体として、日韓学生会議（関西）、KJSFF*（ソウル）、KJSFF



「活動の参加率はどれぐらい？」（芝沼）
「全体で30名いて、活動のある日は全員集まります。参加費を高く設定しているのと（1年の活動を通して8万円。渡航費等含む）、交流への意欲が高いので参加率が高いです」（黒田）



SOUTH（プサン）があります。活動の理念は「未来の日韓を担う人材として、草の根交流を代表し、責任をもって継続する団体」。

※ KJSFF: Korea Japan Students Future Forum

主な活動は月に2度の定例会です。勉強会やレクリエーションを行います。活動のうち人気なのが、未来会議です。毎年夏に、日韓学生未来会議から選抜された15名と韓国のKJSFFから選抜された15名、計30名が、日韓のさまざまな課題について会議を行います。2022年は8月初旬に石川・金沢で開催予定です。

Membership Trainingと呼ばれるKJSFFとの交流会合宿は、夏開催の未来会議の準備という位置付けで、毎年2月に行います。開催場所は日本と韓国交互でしたが、2022年はコロナの影響でオンラインでの交流会を開催しました。

言語交換プログラムという活動は、日韓学生未来会議のメンバーと韓国の

KJSFFメンバーと

が一對一でペアとなり、オンラインでお互いの言葉を学び合います。メンバーそれぞれの言語力などを考慮し、ペアを決定しています。



「言語交換プログラムはどのように進めていますか？ 私たちが似たような活動を行ったときは、韓国側とのやりとりがうまくいきませんでした」（中川）

「「文化」「衣食住」といった複数のテーマが書かれたBINGOカードを用意し、それぞれのテーマについて話し合ってビンゴをつくっていく。ゲーム感覚で楽しむなどの工夫をしました」（芝沼）



まつりに団体のブースを設置し、活動紹介を行っています。その他の活動としては、駐日韓国大使との懇親会や日韓大学生フォーラムなどがあります。

日本コリア未来プロジェクト（発表者：中川）

私たちは早稲田大学の公認サークルです。メンバーは56名いて、半分は上智、専修、立教などの学生や留学生です。

コロナ禍以前は、東アジアに関するテーマでプレゼンテーションやディスカッションをするKS会（KS: コリアスタディーズ）や、韓国に行き現地の学生と一緒にボランティア活動を行うピースツアー（38度線平和活動）をしていました。



中川さんの発表から

コロナ禍以降、KS会はオンライン開催となり、ピースツアーは開催でき

ていません。代わりに、韓国語学習会やお楽しみ会などをオンラインで行っています。

2021年度後期のKS会（全12回、毎週金曜日夜開催）は、「学生生活」「1945年以降の韓国史」「日韓の歴史認識問題」「軍隊について」「日韓ドラマ・映画」「日韓文学」「日韓メディア」「経済（観光）」「ジェンダー」「在日コリアン（文学）」「言語文化について」「食文化について」をテーマに取り上げました。

KS会は、トーク回（プレゼンテーションはなく、Zoomのブレイクアウトセッションに分かれて自由に話し合う）と学習会（事前に年間の発表テーマを告知し、発表を希望する人が事前準備を行い、プレゼンテーションをする）の2種類があります。韓国側の学生が参加することもあります。原則、プレゼンテーション

は日本人メンバーが行っています。

コロナ禍以前は朝鮮大学校との交流がありました。現在は交流が少なくなっています。

「けんかになったことはありませんか。自分は過去に一度だけ、慰安婦問題について率直な意見を出し合って意見がぶつかったことがあります」（相田）

「意見が対立するときは、どこから認識の違いがあるのか、まずは考えるようにしています。例えば慰安婦問題だと、日本政府が主張する日韓基本条約の問題性に集中し、日韓の学生が議論します」（黒田）



2021年度 第1回学習会 2021年9月11日開催

「孫基禎の生き方から学ぶ—オリンピックとは？ 日韓関係の再構築と今後の青年への期待—」

テランマゼンイチ
寺島善一明治大学名誉教授をお招きし、朝鮮半島で生まれながら、日本代表としてベルリン五輪で金メダルを獲得した孫基禎という人物が、スポーツを通じ、どのように日韓親善に尽力したかについて話していただきました。当日は、サッカーをしている若者や大学生、社会人の他、メディア関係者など、会場とオンライン合わせて約50名が参加しました。以下は講演の抄録です。

歴史が修正されぬよう

『評伝 孫基禎 スポーツは国境を越えて心をつなぐ』（社会評論社、2019年4月10日発行）を書いた当時、日韓政府の関係はギクシャクしていました。私は歴史修正主義といわれる人々に対するアンチテーゼとして、日本の朝鮮半島支配がいかに過酷だったかを、孫基禎という有名なマラソン選手の身にふりかかった事実を例に記録する必要があると考え、この本を書きました。

私が孫さんとお会いしたのは1983年です。その後、孫さんが亡くなられるまでお付き合いし、直接お話をうかがうことができました。

孫基禎さんは1912年、現在の北朝鮮の新義州シンウイジュに生まれました。孫さんの実家は非常に貧しく、スケート靴が買えず、凍った川でスケートを楽しむ子どもたちを横目に見ながら、土手を走りました。走ることだけが、彼の唯一の楽しみだったのです。

彼は親の仕事を手伝っていたため、2年遅れて小学校を卒業しました。走るのが好きで、子どものころから能力の片鱗を見せていた彼は、屋間働いて夜学校に行き、早朝にマラソンの練習をするという夢をもち、日本に来ました。

汽車で下関から諏訪に来る途中、甲子園で優勝した松商学園の選手と乗り合わ

孫基禎とは

日本植民地時代の朝鮮半島に生まれ育ち、1936年に開かれたベルリン五輪にマラソン日本代表として出場、当時の世界新記録を打ち立て優勝した人です。そこに至るまで、朝鮮民族が日本に支配されているという現実の中で、マラソンを愛する気持ちと朝鮮民族への強い思いのはざまで大きな苦悩がありました。朝鮮半島が独立を果たした後、スポーツは民族や国籍の違いを超え、平和に寄与するものと確信し、日韓のスポーツ交流と親善の促進に大きな貢献をしました。

せました。汽車が長野県に入ると、県民が万歳三唱で迎え入れるのを遠巻きに見た孫さんは、「スポーツで優勝するということはこんなにも周りの人を元気づけるんだな」と感じたそうです。

諏訪市の丁稚奉公先のうどん屋では、朝から晩まで配達に行かなければならなかったので、夜間中学校に行くことができず、朝の練習もままなりませんでした。

失意のうちに故郷・新義州へ戻ると、彼の才能を認めたマラソン関係者が八方手を尽くし、養生ヤンジョン高校に入学しました。現在はその学校の跡地に孫基禎記念館ができています。養生高校でめきめきと頭角をあらわし、学生の大会で優勝した他、大人に混じってマラソン大会で良い成績をおさめました。

植民地支配下の差別

日本陸上競技連盟が主催するオリンピック予選で孫さんは次々に優勝し、上位には南昇ナムスヨウ竜さんもいました。ところが、3人の代表選手枠になぜ朝鮮人2人を入れるのかと、陸連はいろいろな手を考え、孫、南と日本人選手2人で、競技会の3週間前に、もう一回予選会を行いました。オリンピックの直前に走らせるのは常識的に考えてありえないことですが、それでも孫1位、南2位というのは崩れず、1936年8月9日、ベルリン・オリンピックのマラソン競技に出場しました。

ここでまたひとつ事件が起こります。オリンピック開会式の直前、日本の馬術選手の陸軍軍人が、「帝国陸軍軍人が、朝鮮人や女の後ろを行進できるか！」と、

孫基禎の年表

（寺島善一著『評伝 孫基禎 スポーツは国境を越えて心をつなぐ』から一部抜粋、編集）

1910年	日本による朝鮮併合
1912年8月29日	出生（平安北道新義州南浦洞 現・北朝鮮） *家庭は雑貨商
1928年	日本での丁稚奉公（長野県諏訪、16歳）
1935年11月3日	明治神宮マラソン大会 優勝 2時間26分42秒（当時非公認世界新記録）
1936年8月9日	ベルリン五輪マラソン 優勝 2時間29分19秒（オリンピック新記録）（24歳）
1937年	明治大学法学部入学（1940年卒業）
1945年8月15日	日本敗戦、朝鮮独立
1947年	第51回ボストン・マラソンに監督として参加 徐潤福優勝
1950年4月3日曜日	第54回ボストン・マラソン監督として参加 1、2、3位独占 選手団6月20日に帰国
1950年6月2日	朝鮮戦争勃発、1953年7月休戦
1963年	韓国陸上競技連盟 会長就任
1966年12月	第5回バンコクアジア大会 韓国選手団長
1981年	第84次 バーデンバーデン IOC総会（1988年度ソウル五輪招致活動）
1988年9月	ソウル五輪聖火最終走者（76歳）
2002年11月15日	永眠（90歳）



行進方法に異を唱えたのです。旗手で陸上競技選手団の主将だった大島鎌吉さんは、その馬術選手に対し烈火のごとく怒り「ここはオリンピックの場である。陸軍軍人も朝鮮人もあるか！」と怒鳴りつけました。それ以来、孫さんは大島さんに指示や教育を受けながら、オリンピックとはなんぞや、ということも一緒に考えていきました。

マラソン競技で孫さんは優勝し、それが植民地支配下にある半島の人々を奮い立たせる大きな契機となりました。

「箱根駅伝を走りたいかった」

オリンピックの表彰式の場で、孫さんが月桂樹の陰に隠したユニフォームの日の丸が、東亜日報の新聞記事の第二版の写真では削除され報道されたことで、朝鮮総督府^{※1}と特高警察^{※2}は孫さんに対し警戒を強めました。朝鮮独立運動のシンボルになるのではないかと、という危惧から、総督府の関係者が終始彼を監視し弾圧しました。

凱旋帰国した彼は、当時の^{ポソン}普成専門学校（現在の^{コソヨ}高麗大学）に入学しました。先輩たちが開いてくれた歓迎会に警察が踏み込んできて、朝鮮独立運動を首謀する人間の集会だと、参加者たちが逮捕されました。

このままソウルにいては迷惑がかかると、彼は日本に行く決意をしました。体育教師になりたかった彼は、東京高等師範学校を受験しようとしたのですが、願書を受け付けられないと言われ、南昇竜さんや養生高校のときに物心両面で世話してくれた人がOBにいた明治大学に入学することになりました。

陸上競技部に入り、箱根駅伝などで活躍しようと思った矢先、日本政府は、彼が陸上で名声をますます高めれば、朝鮮独立運動が高まることを恐れ、彼を陸上競技から遠ざけました。彼は亡くなる前、「俺は箱根駅伝を走りたいかったよ」

と言ったそうです。

明治大学を卒業してソウルの銀行に就職した孫さんは、特高警察と総督府から、いわゆる旧制中学校の学徒動員の募集演説をさせられました。私が彼と食事をしたとき、「私の人生でいちばんつらかったことは、有為ある朝鮮の若者たちに、天皇陛下のために死に行ってくれという演説をさせられたことだ」とおっしゃいました。

スポーツ交流に尽力

1945年8月15日に日本が敗戦し、朝鮮が独立した後、孫さんは自宅を合宿所に開放して、前途有為な若者を住ませ指導しました。監督として参加した1947年の第51回ボストン・マラソンで徐潤福^{ソコンボク}が優勝、1950年の第54回ボストン・マラソンでは1～3位を韓国人選手が独占するなど、指導者としても成功しました。

しかし、凱旋帰国した月（1950年6月）に朝鮮戦争が勃発し、スポーツどころではなくなってしまいました。彼は「スポーツというのは、平和な時代でしか繁栄しない。平和の問題を真剣に考えないとスポーツ全体の発展もない」と考えるようになりました。

1988年のソウルオリンピックで最終の聖火ランナーの一人となった孫さんは、「スポーツは国境を超える」という信念の下、中日と韓国の球団の親善試合の橋渡しや、2002年のサッカーワールドカップの日韓共催でも尽力されました。

弾圧を受け、つらい人生を送った孫さんですが、息子さんたちには常に「前を向こうよ、昔のことを言っても始まらない」と言っていたそうです。痛みつけられた人たちからそうに言っただけのありがたいですが、日本による圧政をなかったことにする、忘れるということは、それに泥をかける行為だと思います。

私たちは歴史をしっかりと学んで、朝鮮の人たちの痛みを自分のものとして考え、そこから手を結んでいくことが大事ではないでしょうか。



「評伝 孫基禎 スポーツは国境を越えて心をつなぐ」は2019年4月に社会評論社から出版

※1 朝鮮総督府：1910年の韓国併合によって大日本帝国領となった朝鮮を統治するために設置された官庁。
 ※2 特高警察：特別高等警察。天皇制国家の下で、国家に反対する社会運動や思想の取り締まりを担当した。1945年、敗戦により解体。

2021年12月15日開催

対談「スポーツは国境を越えて ～サッカーと安英学アン・ヨンハの半生を追って～

在日朝鮮人の元Jリーガー安英学さんとスポーツライターの木村元彦さんをお招きし、安さんがどのような思いでこれまでの半生を歩んできたのか、木村さんとの対談形式で伺いました。対談の最後には日本サッカー界の往年の名選手といわれた金明植キム・ミンシクさんがスペシャルゲストとして登壇。約50名の参加者が熱心に耳を傾けました。



サッカーとの出会い

木村：いつもの愛称、ヨンハギと呼ばせてもらいます。サッカーとの出会いはいつだったのでしょうか。

安：僕とサッカーとの出会いは、岡山県倉敷市に生まれて、5歳の時に東京に来て、朝鮮学校に小学生から通っていた時です。朝鮮学校で男子児童といえば、ほとんどサッカーをやっていました。

木村：安選手は朝鮮籍です。朝鮮籍が北朝鮮国籍だと理解されている日本人が多いと思いますが、決してそうではありません。1910年に日本が朝鮮半島を侵略して日韓併合^{*1}した後、半島の人々は強制的に日本人にされてしまうわけですが、日本が敗戦を迎え、1947年に外国人登録令^{*2}が出されると、「もうお前たちは日本人じゃないよ」ということで、日本人と区別するための記号としての朝鮮籍が与えられました。

大韓民国（韓国）が建国された後、日本が韓国と国交を結ぶと、在日コリアンの中には韓国に出身地がある人が多かったので、韓国籍に変えようという動きも出てきました。一方で、韓国籍になることについて、分断された国を認めてしまうことに抵抗を感じたりする方たちも少なからずいらっしゃった。そこ

のところを日本人が理解していないと、コミュニケーションを取る上で大きな齟齬が生じてしまうのではないかと思います。

分断をこのまま追認するのではなく、「自分たちの祖国は一つだ」ということに対する思いがあって朝鮮籍を選んでいる方が実はたくさんいる。朝鮮籍保持には当然、弊害が伴うわけですね。パスポートがないわけですから。

実は、ヨンハギの場合も朝鮮籍にこだわっていますね。

安：僕の祖父と祖母が大切に守ってくれた朝鮮籍ですから、多少、不便だからといって、簡単に変えたくなくて。自分自身が信念をもっていれば、何でもできるんだよ、というのを後輩たちに伝えられたらいいなと思うところもあります。

木村：朝鮮籍の在日コリアンが日本でサッカーをするということは、本当にしんどい。日本人なら日本代表になろうというような道筋がありますが、朝鮮籍の選手が代表チームに入りたいと思っても、韓国代表という線はないわけです。ヨンハギの場合は結果的に国家代表になるわけですが、朝鮮民主主義人民共和国（共和国）政府がパスポートを出したからなんです。

朝鮮高校でサッカーをしている在日コリアンの若者たちは、日本国内で行われるインターハイなどの試合にも出場できませんでした。ヨンハギは東京朝鮮高校1年生の時に、ようやく高体連加盟ができてインターハイに出場でき、3年生の時には全国高校サッカー選手権大会に出場できるようになったんですね。

安：その時はインターハイ以上の喜びがありました。毎年お正月が来ると、テレビで見たり競技場で見たりしていたので、同級生たちと「必ず出場しよう」と盛り上がっていましたね。しかしプレッシャーに打ち勝てず、結果は都大会のベスト8でした。

Jリーグに行く夢はあったんですけども、こんなじゃ到底無理だろうと、引退しました。

やっぱりサッカーをやりたい

木村：そこからまたプロサッカー選手を目指したのはなぜですか。

安：引退した高3の9月か10月ごろに、サッカーから足を洗って何をするかといったら、友達と遊んで青春を謳歌していたんですが、つまらなくなってきて。「やっぱりサッカーやりたいな」って思ったんですけども、今更、親に言い出せなくて。

ところが高3のお正月に、いとこのお兄さんが「ヨンハ、お前、本当はサッカーやりたいんだろ。今から大学進学は間に合わないから、1年浪人して大学に入って頑張ってみろ！」と言ってくれたんです。

サッカーをやりたいかった僕は、その言葉がうれしくて。「サッカーをやらせてください」と、女手一つで僕と兄を育ててくれたオモニ（母）に許可をもらい、1年間の浪人生活をスタートしました。

木村：その当時はどんな毎日でしたか。

安：プロサッカー選手になるという覚悟を決めて浪人生活をスタートさせたので、まずはサッカーを頑張らなくてははいけない。とはいえ、一人で練習するのは難しい。同級生に「どこかでサッカーやっている場所ない？」と聞いたら、三河島にある東京朝鮮第一初中級学校で金曜日の夕方、荒川地域の在日コリアンが草サッカーをやっているという情報を教えてくれました。

そこに行ったら、後の僕の師匠で恩人でもある朴得義パクトウギさんがいました。キャプテンで天パー（天然パー

マ）で、顔はマフィアみたい（笑）。「何やってるの？」と聞かれて、「僕はプロサッカー選手になるために浪人しています」と答えると、「じゃあ、俺と一緒にサッカーやろう」ということで、2日に1回、西日暮里駅前に11時に集合し、そこから文京区湯島にある東京大学の御殿下グラウンドに移動して、お昼休みにグラウンドに集まってきた職員や学生と一緒にミニゲームを1時間ほどやるようになりました。その後は得義さんと5時6時くらいまでずっと2人で、毎日一緒にボールを蹴るというサイクルでした。

木村：そんな充実した1年間を経て、初めて在日コリアンのコミュニティとは違う日本の大学（立正大学）に入りました。

安：最初はちょっと戸惑いましたね。12年間、ずっと朝鮮学校で過ごしてきたので、周りもどういふうに接していいのかなというのが多少はあったと思います。

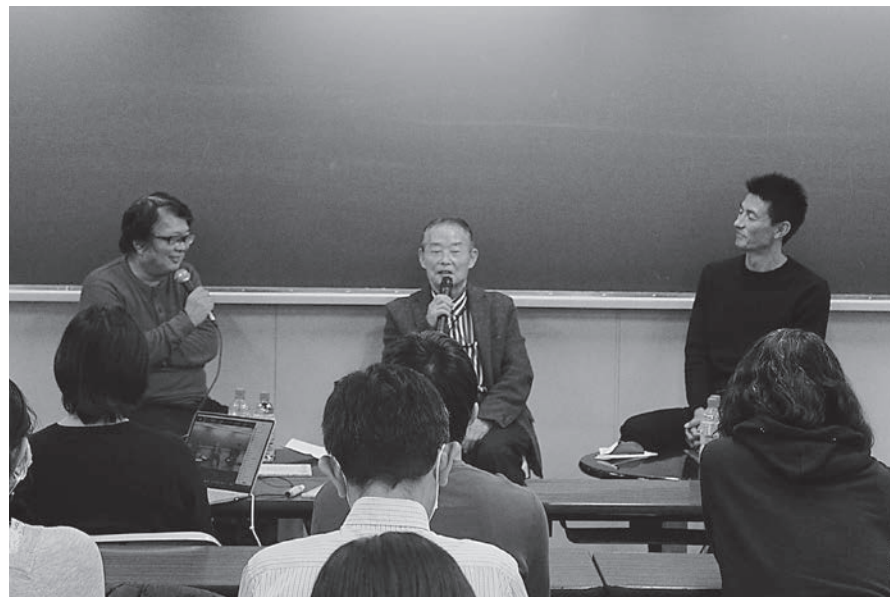
木村：そんなヨンハギが大学4年でキャプテンになるわけですね。

安：グラウンドに出て一緒にボールを蹴ることで、あっという間に仲間になれま

キムミョンシク 往年の名選手、金明植さん

今回の対談にスペシャルゲストとして招かれた金明植さんは、日本サッカー界で「幻の日本一」と言われた在日朝鮮蹴球団（1961年結成）というチームが全盛時代に、中心的メンバーとして活躍した往年の名選手です。このチームは、在日コリアン、韓国・朝鮮人の選手たちで構成され、当時の日本の優良な実業団チームに連戦連勝を重ねるなど、不敗を誇っていました。

金さんは、枝川の第二中級学校から東京朝鮮高校へ行き、中央大学では大学日本一に貢献され、大学卒業後は、在日朝鮮蹴球団に所属して日本全国を転戦して回り、その強さを見せつけました。東京朝鮮高校のサッカー部監督時代には、在日として初めて祖国訪問を実現させ、サッカーを通じて共和国に行って日本に帰ってきた最初のチームを率いました。



左から木村さん、金さん、安さん。木村さんの著書は『オシムの言葉』（集英社文庫）、『ぼくは挑戦人』（共著、ホーム社）他、多数。『無冠、されど至強 東京朝鮮高校サッカー部と金明植の時代』（ころから株式会社）と『橋を架ける者たち—在日サッカー選手の群像』（集英社新書）には金さんのことが描かれている。

安さんには韓国のサッカー専門誌に連載したコラムをまとめた著書『夢に輝く クムン・イルオジンダ』（Pitch Communications）がある

した。言葉はいらないというか、一生懸命やる姿をチームメイトも監督やコーチたちも見ていてくれましたね。

念願のプロに

木村：立正大での活躍もあり、2002年に念願かなってアルビレックス新潟からオファーがありました。

安：開幕前のキャンプでは不安もありましたが、得義さんから「ヨンハ、魂だよ」と言われたので、魂でレギュラーをつかみ取って、開幕スタメンでずっと出させていただきました。

プロ1年目の夏ごろ、若杉強化部長（当時）から招集のレターをいただいて「ヨンハ、代表に選ばれた」と言われて、すごく驚きました。

木村：南北統一サッカー大会の招集でしたね。

安：2002年ワールドカップでベスト4に入った韓国代表と共和国代表が、ソウル

のサンアムドンスタジアムで試合をするっていう、もう夢のような大会だったんです。アルビレックス新潟の選手として僕はワールドカップを見てたんですが、当時テレビで韓国代表を応援していて、ベスト4まで行ってすごいなあと思っていたら、自分がそのチームと試合をするという。青天のへきれきでした。

木村：新潟のサポーターの方たちは、安英学選手を快く送り出してくれたんですね。

安：Jリーグの試合が終わって「行ってきます」とあいさつをした時に、新潟のサポーターの方たちが僕の応援歌を歌って送り出してくれましたね。

木村：代表チームに合流するために平壤に行くわけですけど、ここで洗礼を在日の人たちは受けざるを得ないんですね。すべてがウェルカムなわけでもないんですよ。そもそも練習着が用意されていなかったとか。

安：そうでしたね。少し遅れて代表入りしたっていうのもあったと思うんですけど。とはいえ、みすみす帰るわけにもいかなかったので粘っていたら、走ってみるとか、ボールを蹴ってみるとか、ドリブルしてみるとか言われて。僕は決してそういうのが上手い選手じゃなかったので平凡な評価だったんですけど。

最後に、闘将（得義さんのこと）と磨き上げた1対1がうまく対応できたことで、認めてもらって代表チームに入れるようになって、練習もさせてもらえました。

祖父の故郷でプレー

木村：代表として共和国の一員となった後で、今度はアルビレックス新潟から名古屋グランパスに1年行った後で、韓国のKリーグに行くわけですよ。これも当時、朝鮮籍の選手がKリーグに行くということ自体が大きな挑戦だったと思います。

安：ちょうど名古屋グランパスでの1年目が終わり、契約更新のオファーをもらっていたんですけども、代理人を通じてKリーグからもオファーがあるよというお話を頂いたんです。僕は現役の共和国代表選手がKリーグでプレーできるなんて夢にも思っていなくて。でも、プロの選手として、僕の祖父と祖母の故郷がある地で暮らしながら、

韓国の人たちとも触れ合っていたという気持ちが湧いてきました。それで、釜山アイパークからのオファー



「民族差別的なことはありましたか」（参加者）
「応援されすぎて差別された記憶はないですね。ネットには差別的な声はあったけど、僕はネットはカウントしていないので」（安）

だったんですけども、「ぜひ行きたいです」と代理人には伝えました。それでも、簡単ではなかったですね。

木村：共和国代表の現役選手が韓国のプロ

リーグに行くということからして、大きなトライだったと思います。

安：はい。2年間釜山でやって、その後また2年、水原三星ブルーウィングスでプレーしました。

木村：このときもヨンハギは朝鮮籍にこだわりがあって、国籍を変えずに行ったわけです。共和国と大韓民国は戦時中^{※3}の国ですよ。

安：僕も韓国に行った時には不安もあったんですけど、本当に多くの人たちが応援してくれました。サポーターはもちろん、街行く人も応援してくれて。お店の人とかも「アンヨンハ選手〜」ってちょっとおまけしてくれたり、いろいろ便宜を図ってくれたり。一度ソウルを歩いている時に、後ろから車が来て、通り過ぎながら「アンヨンハ、ファイティン！」って身を乗り出して言ってくれたことがあって、あれはなんでわかったのかなと今でも思っています（笑）。

「僕は在日ミャンマー人です。ポジションはゴールキーパーです。目標はJリーグでプレーすることです。安英学選手の信念をお聞きしたいです」（参加者）
「プロになるんだという覚悟をもって動き始めたときに、いろんな出会いと奇跡が起きました。誰かのために頑張ることが原動力になると思うので、そんな気持ちをもって、頑張ってください」（安）



- ※1 日韓併合：韓国併合とも表記される。1910年8月29日に公布施行された「日韓併合に関する条約」に基づき、朝鮮が日本の植民地にされたこと。1945年まで続いた。
- ※2 外国人登録令：1947年5月2日に公布・施行された外国人管理法。日本国民として扱われていた台湾人・朝鮮人を「外国人とみなす」とした。1952年に廃止。
- ※3 戦時中：第二次世界大戦の終結とともに朝鮮半島から日本が撤退後、北緯38度線を境に北側をソ連、南側をアメリカが占領。1950年6月25日、北朝鮮の南下で朝鮮戦争が始まった。約3年にわたり500万人以上の死者を出したといわれる戦争は、1953年7月27日に休戦協定が結ばれたが、実質的な終戦にはいまだ至っていない。

韓国の歴史教科書について知ろう!

今回の“語り場”活動では、韓国近現代史研究者の上山由里香さんをお迎えし、4回の講座を通して韓国の歴史教科書について学びました。オンラインで開かれた“語り場”には、大学生や非常勤関係者、メディア関係者などの10名が参加しました。

第1回 2021年9月25日開催

イントロダクション「韓国ではどのような歴史教科書が作られ、使用されているのか？」

講義

第1回は連続講座の導入として、この講座に関する全体の説明がありました。講師の上山さんからは、歴史教育を受ける場として、1. 社会の中の博物館や資料館など、2. 日常生活の中のテレビ、新聞、インタビューや家族からの話、3. 学校教育での歴史教科書の3つが挙げられました。

これらの情報から自分が聞きたい情報を取捨選択した結果、その人の歴史認識が変わってきます。そのため、相手の歴史認識が知りたければ、相手が何から何をどのように学んだのかを知ることが、認識を理解することにつながるのではないかというお話がありました。

今回、取り上げる内容は、韓国併合や植民地支配、朝鮮の民衆の犠牲が歴史教科書でどのように叙述されているかについてです。日本との共通点や相違点を見だし、望ましい歴史教育や歴史教科書とは何かを考えました。

韓国の歴史教育では、近現代史を学ぶ時間配分が日本より比較的多く割かれています。歴史教科書はストーリー性があり、正解を問うのではなく、考えさせる工夫がされています。

質疑応答と感想

参加者：これから教育を受ける人は、どのようなスタンスで歴史教科書を学んだらいいでしょうか。

上山さん：韓国史や日本史という一国の歴史という視点ではなく、広い視野でさまざまな立場から見るのが重要と考えます。普通の人々の暮らしを想像させる教



育ができるといいなと思います。

参加者：高校時代に使っていた教科書は、韓国の教科書と全然違う印象を受けました。韓国併合のあたりが詳しく書かれていないと思いました。

参加者：日本と韓国の歴史教育には違いがあると思いました。韓国の若者たちはキャンドルデモや不買運動をしていましたが、これは主体的な歴史認識による違いかと思えます。

2. 韓国の歴史教科書と歴史教育

- ・小中高校の歴史教科書と歴史教育の実情(2021年9月現在)
- <小学校>
 - 教科書種別: 国定教科書
 - 科目名: 「社会」
 - 対象: 5, 6年生
 - 授業時間: 1週間で6時間
 - 教科書の種類: 『社会5-1』-1種
『社会5-2』-1種
『社会6-1』-1種
『社会6-2』-1種

※2023年から該当科目は検定教科書が採用される予定。

2. 韓国の歴史教科書と歴史教育

- ・小中高校の歴史教科書と歴史教育の実情(2021年9月現在)
- <高等学校>
 - 教科書種別: 検定教科書
 - 科目名: 「韓国史」(必須)
『世界史』, 「東アジア史」(選択)
 - 対象: 全学年
 - 授業時間: 「韓国史」※3年間で6単位以上履修。
 - 教科書の種類: 『韓国史』-9種
『世界史』-4種
『東アジア史』-4種

第2回 10月2日開催

韓国の教科書を読む1 「韓国併合（日本による朝鮮半島の植民地化）はどのように叙述されているのか？」

講義

実際に韓国で使われていた高校の教科書を翻訳した『検定版韓国の歴史教科書—高等学校韓国史』（明石書店、2013）、日本の高校の歴史教科書『詳説改訂版日本史B』（山川出版社、2020）、日中韓三国共同で作られた教材『日本・中国・韓国＝共同編纂 未来をひらく歴史—東アジア3国の近現代史』（高文研、2005）の3冊の解説があり、読み比べました。韓国併合についてどのように叙述されて

いるのか、その過程を詳しく見ていきました。

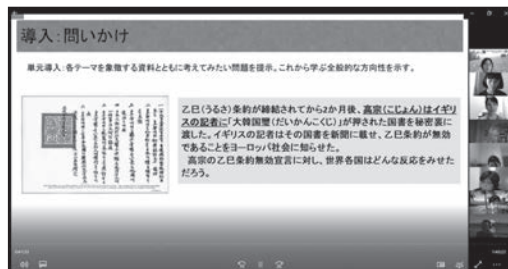
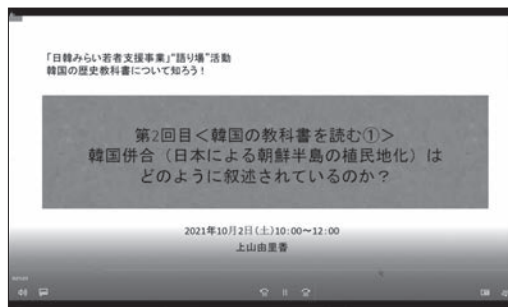
2冊の教科書と1冊の教材には、1910年の韓国併合に至る経緯として、日清戦争、日露戦争により、朝鮮の主権が奪われ、段階的に植民地化されていったことや、諸外国との関係性があり、日本がアメリカ、イギリス、ロシアとの条約を結ぶ中で、日本が朝鮮を支配していくことを列強諸国が容認していたという背景が載っています。段階的に朝鮮が日本に支配され、保護国となり、1910年の日韓併合条約（正式名称：韓国併合に関する条約）締結により、日本の植民地となっていた過程や、日本の植民地支配に対して抵抗した義兵に関する叙述もありました。

韓国の教科書の構成は、はじめに「導入：問いかけ」という項目があり、テーマを象徴する資料と問題が提示され、これから学ぶテーマの全般的な方向性が示されています。「資料を読む」の項目では、資料を読むことで理解を深める内容があり、「歴史の窓」というコラムでは、さまざまな資料を使い、生徒が当時の状況を簡単に理解でき、興味が感じられるような内容になっています。

質疑応答と感想

参加者：朝鮮の皇帝がオランダのハーグに特使を送った話が出てきました。植民地分割競争のことで、アメリカがフィリピンを欲しいなら認めるし、日本が朝鮮を欲しいなら認める、というようなやり取りがあったようだが、それを聞いて国際社会は朝鮮に対して冷たいという印象を持ちました。
上山さん：ハーグ密使事件^{*1}について、韓国側は「特使」、日本側は「密使」事件と扱っていて、日本と韓国では見方が違います。

『未来をひらく歴史』では、日本と韓国では、ある条約に対して理解や解釈が異なっていることをそのまま載せており、それが重要だと思います。多国間でつくった教材は、それぞれの立場を入れて書くことができるため、どういった部分で解釈のずれがあるのか



がわかります。

参加者：日本は10年かけ、段階的に韓国の権力を奪いました。その途中で、韓国は他の国と協定して日本に反発することもあり得たと思います。

第3回 2021年10月9日開催

韓国の教科書を読む2「日本の植民地支配や朝鮮の民衆の犠牲（徴用工、「日本軍」慰安婦など）はどのように叙述されているのか？」

講義

前回学んだ韓国併合に対する日韓での認識の違いを理解した上で、現在の日韓関係悪化の要因ともいえる徴用工と「日本軍」慰安婦問題について、教科書上ではどのような認識の違いがみられるのかを確認しました。

韓国の教科書には、朝鮮の人々の民族性や食物、物資が奪われていったという内容が書かれていました。創氏改名や民族独自の言語や文化の弾圧は、段階的に行われていきました。日中戦争の勃発により、1938年に国家総動員法^{*2}が制定され、植民地である朝鮮の人々も、戦争への協力をさせられる状況になりました。1944年には朝鮮人労働者の移入が閣議決定され、炭鉱などで働く強制連行の始まりとなっていきます。女性が置かれた状況については、日本が占領地などに慰安所をつくり、女性たちに強制的に軍人の性の相手をさせた制度として、日本軍「慰安婦」制度に関する叙述がありました。正確な数字を記載することが難しいところがあるのか、「慰安婦」の人数や場所についての記載はなく、数行の説明がある程度でした。

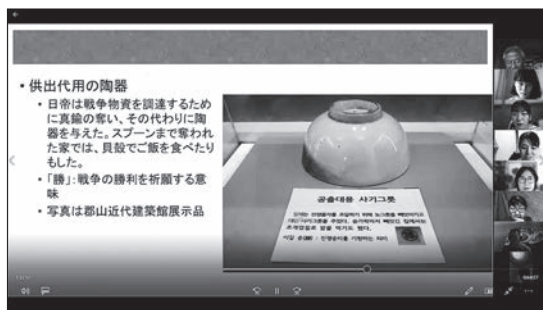
それに対して日本の教科書では、「数十万人の朝鮮人や中国人を日本本土などに連行し、土木工場などで働かせた」という叙述があり、「日本軍」慰安婦に関しては、注に説明書きがありました。日中韓三国共同の教材では、「日本軍」慰安婦について、中国や韓国の被害も書かれ、さまざまな立場の人の状況を取り扱っていました。

質疑応答と感想

参加者：日本は朝鮮から農民を動員しましたが、彼らは高等教育も受けておらず、日本語ができない人々なので、過酷な労働環境でしか働かさざるをえなかったのだと思います。

上山さん：時代的に徴用された人々は生きるために、朝鮮人労働者にならざるをえなかっただろうと思います。朝鮮人が「自ら行った」という日本人がいますが、

背景にはさまざまな収奪があり、労働するしかない状況を日本がつくりあげた部分も大きいのではないかと考えます。



第4回 2021年10月16日開催

まとめ・議論「日韓での克服すべき課題は何か？ どのように克服できるだろうか？」

講義

最終回となったこの回では、これまで読んできた教科書や教材の内容を踏まえ、「日韓で克服すべき課題は何か？ どのように克服できるだろうか？」という点を考えました。

韓国の教科書では、「私たちが克服すべき東北アジアの歴史摩擦」という節で、日本の歴史教科書、靖国神社参拝、領土問題、戦争責任問題（徴用工、慰安婦）が取り上げられていました。顕在化する問題だけでなく、国家間で歴史摩擦を乗り越える取り組みの紹介もあり、東アジア地域で共同編纂された歴史教材に関する資料が付け加えられていました。このような取り組みは、ヨーロッパなどでも多数事例があるそうです。

近年、一國史の叙述を越えるための努力が行われているそうです。韓国では2012年3月から「東アジア史」（選択科目）、日本では日本史、世界史という科目に代わり、2022年4月から「歴史総合」、中国では2022年より「中外歴史綱要」などの教科目を通して、日中韓で実施されている政府レベルの取り組みについても紹介されました。

質疑応答と感想

参加者：韓国に留学したとき、植民地に関して、日韓の意識のすり合わせができていないと感じました。授業でドイツとポーランドが共同で教科書の編纂をしたことを知りましたが、日韓でも共通認識をつくる必要があります。

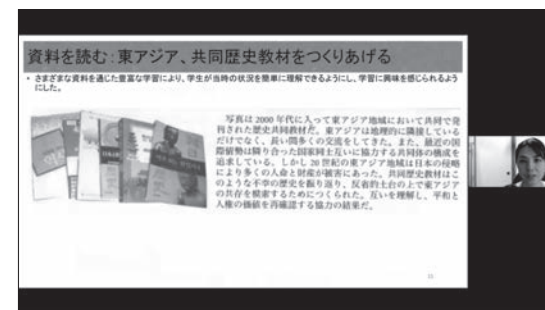
参加者：私のふるさとに在日朝鮮人の集落があり、強制的に連れてこられた人の話をたくさん聞きました。そういう話を隠ぺいすることに怖さを感じます。

“語り場” 1を終えて

日本と韓国が異なった歴史認識をもつ中で、韓国と日本の教科書、日中韓三国共同編纂の教材を読み比べ、お互いを理解しようとする必要性が講師と参加者の間で語られました。

日韓みらい若者支援事業事務局の伊藤からは「若い世代はK-POPや韓国ドラマで韓国に憧れをもっていて、私の世代とは認識が違うことに驚きます。客観的に歴史を振り返り、理解した上で新しい関係を構築する若い世代が増えていくことを望んでいます」との意見が述べられました。

講師の上山さんの「皆さんと議論をする中で、改めて勉強になる部分もありました。少人数ということもあり、深く内容に触れることができました」との言葉で、4回の“語り場”活動が幕を閉じました。



※1 ハグ密使事件: 1907年、オランダのハーグで開催中の万国平和会議に韓国皇帝が独立の回復を訴えた事件。

※2 国家総動員法: 1938年4月公布、5月施行。戦争遂行のため、国家の全ての人的・物的資源を国家が統制・運用できる旨を規定したものの。

あなたの身近にある、 日本と朝鮮半島との文化的つながり ～ K-POP の国の文化を知ろう～

今回の“語り場”では“日本との文化的つながり”をキーワードに、「食」「陶磁器」「日本各地に残る交流の跡」という3つのテーマを取り上げ、それぞれの成り立ちが現代の私たちの暮らしとどのようにつながっているかを学びました。オンラインで4回にわたって行われた“語り場”には、学生や社会人など合わせて14名が参加しました。

第1回 2021年11月10日開催

「韓食留学 1999」著者・八田靖史さんと語る「コリアン・フード」

日韓料理の共通点

この日の講師は、コリアン・フード・コラムニストの八田靖史さん。100回を超える訪韓で約1700店の飲食店を訪れた八田さんは、韓国料理と日本料理を比べ、共通点を次のように挙げました。



「韓国ではお皿や箸が金属ですね」（参加者）
「諸説ありますが、王様は毒殺されてはならず、銀を使うと色が変わるので、それを見極めるために金属を使うようになりました。茶碗も金属で熱くてもてないので、お膳に置いて食べます。現在の食事のマナーも金属食器に向けたものになったといわれています」（八田）

「ごはんが主食。米を指すとともに“食事”という意味もあり、ごはんを食べ

ることが食事であるという概念も共通」「醤油、味噌などの発酵調味料を使用」「食材が似ている。食の禁忌が少ない」。

「韓国ドラマで、大切にしている人に自分の箸で魚を取ってごはんにのせてあげる場面を見ました」（参加者）
「取り箸、取り皿は、基本的に韓国では使いません。パートナー間で取り分けて相手にまずあげるというのが食習慣として根付いているのではないのでしょうか。コロナで今はどうなっているかわかりませんが」（八田）



一方、相違点として「ダシ（韓国では、牛、豚、鶏などの肉や骨を煮込んだスープがダシ）」「味付け（韓

国料理は赤い、辛いというイメージがある。唐辛子、コチュジャン、しょうが、にんにくをよく使う」「混ぜて食べる（例：ビビムパプ、日本ではビビンバ）」といった韓国料理の特徴が紹介されました。



韓国料理には肉の脂の味わいを楽しむカルビのみの料理や、コラーゲンたっぷりで膝の部分だけを楽しむ料理など、頭からしっぽに至るまでの部位ごとの細かいメニューがある

韓国料理の歴史

韓国には三国時代^{*1}に中国から仏教が伝わり、仏教は殺生を禁ずることから肉食はわずかでした。高麗^{*2}時代、元（中国）からの支配を受けたことにより、元の食文化が取り入れられました。高麗時代後期の王妃は肉食の習慣がある、元から嫁いだ人で、上流階級から肉食が復活したという歴史があります。

朝鮮^{*3}時代になると、仏教から儒教が国の教えになり、肉食文化への禁忌がなくなりました。14世紀以降に宮中で焼肉文化が広がるのですが、牛は高級な食材だったので、上流階級や両班（特権的な官僚階級の人を指す）の人ぐらいしか食べられませんでした。一般の人が牛焼肉を口にするのは、20世紀に入ってからです。

韓国料理に必須な唐辛子は、もともと中南米原産のものが、コロンブスの新大陸発見でヨーロッパにもち帰られ、日本の大分県にポルトガル人宣教師が唐辛子を献上し、16世紀後半に朝鮮半島に入っていったといえます。当初、毒として入ってきた唐辛子は、すぐに食文化に浸透したものではなかったようです。

唐辛子や炭は鬼神をはらう力をもっています。そのため、ユッケジャンは葬儀場での定番料理で、韓国ドラマのお葬式が出てくる場面でもユッケジャンが必ず出てくるそうです。

日本の韓国料理と韓流の関係

八田さんは、韓国ドラマや K-POP など韓流ブームに伴って日本に広がった韓国料理とその背景を解説しました。ドラマ『冬のソナタ』（2003年）、『宮廷女官チャングムの誓い』（2004年）の人気により宮中料理のレストランができました。

映画『パラサイト 半地下の家族』（2020年）に登場した、インスタントラーメン2種類のミックス食べ「チャパグリ」が流行り、2020年に韓国の農産物・食品の輸出高が史上最高を記録。この他、多くの興味深い事例が紹介された後、次の3点をまとめとし、講座が終了しました。

- ・日韓の食文化は相互に親しみやすく、違いから発見が生まれ理解が深まる。
- ・食文化の背景を知ると、歴史、地理、社会が見える。
- ・韓国料理のトレンドは韓流とともに現在も急拡大中。

- ※1 三国時代：紀元前1世紀ごろから7世紀まで、高句麗、百済、新羅の三国が鼎立した時代。
 ※2 高麗：918年から1392年まで続いた国家。一時、元に支配されていた。
 ※3 朝鮮：朝鮮半島に1392年から1910年まで存在した、朝鮮の歴史における最後の統一王朝。

第2回 2021年11月13日開催

伝統を受け継ぎ世界に名だたる「薩摩焼」を未来へ ～十五代 沈壽官^{チンジュカン}さんを迎えて～

朝鮮半島から来た陶工たち

今回の講師は、薩摩焼の宗家15代目で駐鹿児島韓国名誉総領事の沈壽官さんです。420年以上の歴史がある薩摩焼は、薩摩藩の藩主、島津義弘が文禄・慶長の役^{※4}で朝鮮半島に出兵し、帰国する際に連行した朝鮮人陶工たちにより創生されました。沈壽官家の始祖である初代・沈当吉はその一人です。

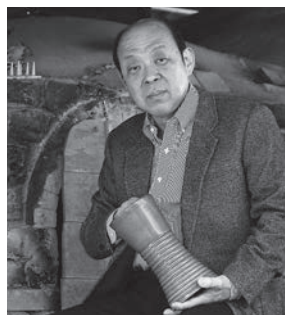
島津家は彼らに門を構え、塀をめぐることを許す代わりに、その姓を変えることを禁じ、言葉や習

俗も朝鮮のそれを維持するように命じる独特の統治システムをつくりました。薩摩藩は外貨を必要としていたため、中国人居留区やコリアンタウンをつくり、外国人にはいつまでも外国人でいてもらう必要があったのです。沈さんが今も沈という姓を名乗っているのは、その名残なのです。

^{クチバナナンケイ}橘南谿という江戸時代後期の医師が書いた東西遊記(1795年)に、「高麗の村」という章があり、沈さんの村について書かれています。その中で村の庄屋が「故郷忘れじがたく候」と言い、この言葉は司馬遼太郎の小説のタイトルになりました。今、萩焼や有田焼など各地に散らばった朝鮮人陶工たちの末裔に、望郷の思いがあるか尋ねても、彼らは「まったくない」と言うそうです。

通訳も務めた陶工

薩摩藩は、必要最低限の貿易を朝鮮と行っていました。その際の通訳をしていたのが沈さんの村の人間です。当時はおおっぴらに貿易はできないから、朝鮮人



沈壽官さん

はあくまで漂流民という体裁をとりました。船が難破して鹿児島に漂着し、薩摩の人たちが助ける。いよいよ帰国となった時、礼として渡された箱には高麗ニンジンが入っています。これを薩摩藩は越中富山の薬師商に売り、朝鮮人には北海道から薩摩にもち込まれた昆布を餞別として渡しました。そういうバーター貿易の中で、陶工は通訳もしていたのです。

薩摩藩は1867年に開かれたパリ万国博覧会に、日本とは別に単独出品しました。薩摩焼のヨーロッパデビューです。ヨーロッパの人々が薩摩の白い陶器を見た時、一気にジャポニズム^{※5}に火が付きました。

民族や国家を超えて

明治に入り日本が帝国主義化していくと、陶工の暮らしも厳しいものになっていきました。戦争中、沈さんの家族も非常に苦勞し、軍の命令で手りゅう弾をつくらされました。

「日韓関係に関して言うと、いちばん苦しかったのは父の時代だっただろう」と沈さんは言います。お父さんが旧制中学に通う道すがら、他の地区の子どもたちが待ち伏せしている。朝鮮征伐という名の暴力が日常的に行われていて、これを突破しないと学校にたどり着けませんでした。

「日本軍の軍人となり、靖国に軍神として祀られることが、自分の家を守り妹たちを差別や偏見から守る唯一の道だ」ということで、たくさんの特攻兵が沈さんの村から出ました。

司馬遼太郎は「民族や国家をトランス(超越)することが大切だ」と言いました。沈さんは「わが家のルーツには誇りをもっています。大切なのは、私がこれからどう生きるかでしょう」と語りました。

「薩摩藩が朝鮮人居住区をつくって苗字を変えさせなかった理由は、朝鮮へのリスペクトだと思ったのですが、実は外貨を得るためというのは知らなかった。先祖から聞いたことを自分の言葉で語る人の話を、多くの若い人たちが聞ける機会があるといいと思います」(参加者)
 「父が沈壽官のおちょこを持っていました。過去に問題があるとしても、その上に立ちどうやって生きていくかが大事、ということが心に残りました」(参加者)



※4 文禄・慶長の役：1592年から1598年にかけて豊臣秀吉が明(中国)征服を目指して朝鮮に兵を出した侵略戦争。

※5 ジャポニズム：19世紀後半にヨーロッパで流行した日本趣味のこと。

あなたの近くの公園やお寺、庭先にも?! 朝鮮半島由来の石人像など

文化財保存に努める市民研究者

今回の講師は、むくげの会会員の^{フカダ コウジ}深田晃二さんです。神戸で1971年に生まれたむくげの会は、朝鮮の文化、歴史、風俗、言葉を勉強するサークルです。深田さんはこれまでに30回近く訪韓し、多くの朝鮮王朝の墓（王陵）を見てきました。また日本に渡ってきた石人像や石造物を調べ、これまでに約680点に上る文化財の身元を突き止め、その保存活動にも尽力されました。

オンラインによる講演は、1回目は朝鮮半島の王陵にある石造物、朝鮮半島の地理と歴史、日本各地に現存する半島の石造物などについて、2回目は渡来した文化財の背景と返還問題、韓国へ返還された文化財などについてのお話でした。

朝鮮の石造物を知れば日本の石造物がわかる

深田さんによると、1392年から1910年にわたって27代続いた朝鮮王朝の墓、すなわち王陵に、石人像などの代表例を見ることができるそうです。王陵の石造物の種類や意味を知れば、日本にある石造物がどこから来たか、意味することは何かを理解できるといいます。

深田さんが示した王陵配置図には、王が埋葬された土饅頭の周りを、羊や虎、石人像などの石造物が囲んでいます。それぞれには意味があり、例えば^{ソギョク}石羊は邪悪なものをやっつけ親孝行を象徴する守護神、^{ソクホ}石虎は勇敢な動物として王陵を守るといった役割があるとのこと。陵上の左右に建つ2メートルほどの石柱は^{マンジョソク}望柱石といい、遠くから霊魂が自分の幽宅（墓）を探してくる目印の役割をもっています。

墓の正面の両側には、人の形をした文人石と武人石が一對ずつ配置されています。文人石は王の命令に従うという意味で笏を胸の前に両手でもち、武人石は王を護衛する武官の姿で、刀をもって立っています。

この他に、多層石塔、浮屠、双獅子灯籠、神道碑、香炉石、鼓石など多くの石造物の写真をしながら、その意味を学んでいきました。

盗まれた朝鮮文化財

王陵を例に石人像や石造物を見た後は、朝鮮半島の歴史を復習し、韓国内の石人像や石造物の所在地を確認していきました。朝鮮半島から日本へ渡来した文化財は、西日本を中心に各地に散らばっています。^{キムヨンヒ}金延禧さん（2016年）によると、

その数は71,375点。これは海外にもち出された韓国文化財の43.5%に相当します。

それらの文化財が日本へ渡った時期は、豊臣秀吉が2度にわたって行った朝鮮出兵、つまり文禄・慶長の役のころと日本が朝鮮を植民地支配した時期です。植民地体制に入っていた1905年から終戦の1945年までは、朝鮮文化財の盗難や盗掘が相次ぎました。

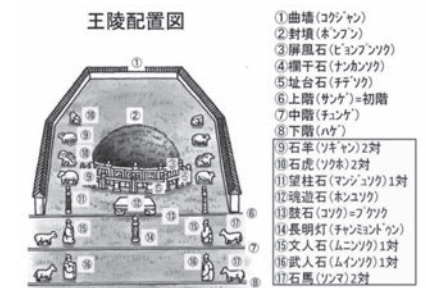
王陵や古墳から盗掘された高麗青磁の主な買い取り主が、初代韓国統監^{※6}を務めた伊藤博文だったことなど、多くの文化財が不当に日本に渡ってきたことが紹介されました。

今、世界では、かつて植民地からもち去られた文化財を、もともとあった国へ

「それほど日本が盗掘してきたと思うとつらい。韓国との友好を取り戻すためにも文化財の返還はよいのでは」（参加者）
「韓国の歴史ドラマを見ていますが、今日のお話でドラマの内容が史実だったとわかりました」（参加者）
「日本に渡来した文化財がたくさんあることに驚きました。若い人にそういうものを見に行ってもらいたいと思います」（参加者）



石人像、石造物は、立体感を伴ったボリューム感にその美術的価値があるといわれている。深田さんは、むくげの会の『むくげ通信』に「朝鮮石人像を訪ねて」を連載中



返還する動きが起きています。日本から韓国に返還されたものもありますが、大倉集古館が保有する利川五重石塔のように、韓国からの返還要求を拒否しているものもあります。深田さんはヨーロッパの文化財返還の事例を示しながら「返還について日本は遅れているので、朝鮮文化財の返還もどうなるか危惧している」と話し、2回にわたる講演を終えました。

※6 統監：日本が韓国を支配するために設置した統治機関、韓国統監府の長官。

記事「^{イルダ}일다」を通して 韓国の市民活動を知ろう

今回の“語り場”は、ふえみん婦人民主新聞^{*1} 編集部の清水さつきさんをゲストに迎え、韓国のインターネット・フェミニズム・ジャーナル「^{イルダ}일다」^{*2}の記事を読んで意見交換をしました。司会進行役は Asia Commons 亜州市民之道理事長の麻生水緒さんが務めました。

第1回 2021年12月6日開催

イントロダクション「イルダ」の紹介

I部 記事の紹介と説明

4回にわたる今回の“語り場”では、イルダの記事を読んで話し合い、最終的に「イルダの編集長に質問をする」ことを目標とします。

この日、司会の麻生さんが紹介したのは、「家父長制の問題」「女性賃金差別」「女性就職差別」「高度障害者の問題」「トランスジェンダー」について書かれた5本の記事。

麻生さんは記事を読むにあたって着目してほしい点として、次の3つを挙げました。

1. 母親の立場、女性の就職差別、賃金差別、高度障害者、トランスジェンダーの生きにくさが描かれた記事を通して、韓国のさまざまな女性の現状を知る。
2. イルダがマイノリティー当事者を記者として育成している。
3. イルダは若い世代の動きに注目している。

II部 感想と意見交換

日韓の市民交流 NGO を運営している団体の代表・男性：日韓市民交流をする時に、お互いの感情を傷つけるのであれば初めから話さないという考えで、政治外交の話は NG にしています。日韓市民がお互い正しい歴史認識をもっていると思います。

NGO スタッフ・男性：日本は近現代史をおろそかにしているが、きちんと教えるべき。韓国の方とつきあう場合、それを知っているかどうかは大きい。

清水さんは、「ふえみん」2018年6月5日号に掲載された、「韓国で広がる一連の #MeToo 運動の流れ」を紹介した。——3月には国際女性デーにちなみ、女性たちがさまざまな場所で #MeToo と声をあげ、勢いのある運動をつくっていった。共同弁護団代表のイ・ミョンスク弁護士は3月の会合で「被害者に寄り添う男性ベテラン弁護士も増え、文化芸術界の性暴力を徹底的に調査する」と報告し、さらに「被害者が願うことは何かを報道し加害者処罰に終わらないことが重要だ」と強調していた



社会人・女性：日本は戦争に向き合ってこなかったことを痛感します。そのことが今の日本の政治に深刻な影を落としています。

第2回 12月13日開催

「慰安婦」問題、反日不買運動など歴史問題にかかわる日韓関係

I部 記事の紹介と説明

麻生さんが紹介した記事は、「安倍首相は“慰安婦”問題を解決したか」と「イルダの編集長から見た日韓関係 強制連行、慰安婦問題—日韓の市民・フェミニストが共に解決を」の2本で、韓国の市民活動家の見方に注目しました。

日韓合意^{*3}が締結された2015年の時代背景や、「反日不買運動」をめぐる日韓の報道の違いを、韓国の KBS^{*4}と日本の NHK、FNN のニュースを例に比較した説明を麻生さんから受けながら、参加者はイルダの記事を読み進めました。この中で麻生さんが設定した論点は、「日韓関係についてどう思うか」「日韓市民の世代の違いはあるのか」「反日は成熟したか、嫌韓はどうか、不買運動のメッセージは何か」「可視化されてこなかった女性とは」の4つです。

II部 ゲストのお話

ゲストの清水さんがふえみん婦人民主新聞とイルダとの14年にわたるつながりを、24本の記事を読みながら振り返りました。ふえみんの記事は、イルダから依頼があった時に毎月1、2本を提供し、イルダの記事は2カ月に1回程度、麻生さんが翻訳してふえみんに掲載されています。イルダの記事の内容は日本の

フェミニストに共有されており、2019年には韓国へのスタディツアーを開催し、イルダとの交流を図ったとの紹介がありました。

III部 感想と意見交換

社会人・女性：文化もフェミニズムも、一つの国の中で、みんなが同じものを指しているわけではないのですね。

清水さん：日本では、墮胎、中絶を中心に活動している人たちと性暴力を中心に活動している人たちといろいろ分かれていますよね。違う分野でも上手く手をつなげるのが韓国かなと思いますけどどうですかね。聞いてみたいです。

第3回 12月20日開催

女性運動、#Me Too運動、フェミニズムブームなど韓国の市民活動の現状

I部 記事の紹介と説明

麻生さんがイルダの記事を紹介しながら、韓国の#MeToo運動、最近のフェミニズム運動の背景を説明しました。記事は次の6本。

1. 韓国の#MeTooについて：「日韓で#MeTooを！」
2. 日本の#MeTooについて：「北原みのりさんに聞く」
3. 韓国のデジタル性犯罪とは：「^ニn番部屋事件」
4. 大学生の活躍1：一追跡団花火（女子大学生）の活躍
5. デジタル性犯罪の被害者の声
6. 大学生の活躍2：一大学生コミュニティアプリのモニタリング

ここで麻生さんは論点として次の5つを設定しました。

1. 今、韓国の女性たち、特に若い女性たちは女性が連帯すれば必ず社会は変化すると信じている。
2. 日本で、政治家や言論人を緊張させ、社会を揺るがすような運動には発展しなかったのか。
3. 日韓のフェミニストが互いに情報を共有し、共に法制度の改正や政策提言を模索したい。
4. デジタル性犯罪の怖さと被害者の願いを実際の被害者の声を通して伝える。
5. 大学生のフェミニストたちの活躍。

II部 感想と意見交換

在日韓国人2世・男性：韓国人は慰安婦問題でもいろいろ発言していますが、日本に向けてだけではなく韓国に対してもガンガン言っちゃうんですね。韓国には民衆の革命の歴史があるので意識が高いのかなと思いました。

大学生・女性：韓国の女性たちは連帯している。互いに支持すれば必ず社会は変化するというところにびっくりしました。日本でもSNSでフェミニストやマイノリティーの人が声をあげていますが、成果が少ないと思います。

イルダの編集長への質問

話し合いを通して、イルダの編集長への13個の質問を決めました。イルダの編集長のチョイ・ヨウルさんに質問をメールで送り、回答は次回発表されることになりました。

第4回 2022年1月17日開催

イルダの編集長との質疑応答とまとめ

I部 イルダの編集長の回答

麻生さんがチョイ・ヨウル編集長からの回答を参加者と共有し、日韓慰安婦問題についての補足として憲法裁判所^{*5}の説明をしました。編集長への質問と回答の一部抜粋を次に紹介します。

質問：20代の韓国人男性のフェミニズム嫌悪が激しくなる中で、日本軍「慰安婦」問題についての考え方にも影響があるのか。

回答：10代と20代の韓国人男性のフェミニズム嫌悪/女性嫌悪が深刻になったことは事実です。それはフェミニズム自体についてわかろうとせずに学ばないからでもあります。世界各国で女性運動が活発に起きて女性の権利が強くなる時、バックラッシュ (backlash、社会の進歩的な変化を怖がって激烈に反対する勢力の動き) が起きたのです。

アンチフェミニズムが日本軍「慰安婦」問題に対する概念にも影響を及ぼしたかという点については、韓国で日本軍「慰安婦」問題はフェミニストだけが関心をもつ問題ではないので、現在の20代の男性のフェミニズム嫌悪が日本軍「慰安婦」問題に対する概念に与える影響はそれほど大きくはないと思います。

日本軍「慰安婦」運動が特定団体や特定個人に集中してはいけないという教訓があり、もしかすると本当の運動はこれからかもしれないと思

います。

イルダでは2021年から若い研究者を中心に日本軍「慰安婦」問題をまた新しく分析して、国際法上で解決することができる方法があるのか多角的に模索する記事を連載しています。

質問：日韓市民交流に政治・外交の話は必要だと思うか。日韓交流を進めるために必要なことは何か。

回答：私は市民交流において政治外交の話を外すということが納得できません。政治的な観点が違うけれど、日本と韓国は胸を痛めた近現代史を共有しているでしょう。お互いの歴史と文化を理解するために努力して、解けなかった課題に対しては（加害と被害の歴史に対して）少なくとも切なさを表す程度にならなければならないじゃないですか。

私の外曾祖父（お母さんのお父さん）は日帝強占期（植民地時代）に日本の炭鉱で亡くなりました。私の母は日本に原爆が落ちたことは罪の代価を受けたことだと思っていたのですが、実際に日本人を知るようになった時、その人を嫌ったり誹謗したりしなかったです。なぜなら、その方が戦争の責任を負っている訳ではないからです。

つらい歴史を共有している、加害国と被害国の関係でまだ葛藤があるということが悲しいことですが、近い隣の国で、連帯できる点も多く、何よりお互いに対して知ることを望む、このような前提から出発すればどうでしょうか。

II部 感想と意見交換

NGO スタッフ・男性：憲法裁判所を知らなかったです。他の国の憲法と比較できてよかったです。

社会人女性：対話の重要性がわかりました。イルダの編集長から「お互いを知っていく」というふうに言ってもらえたことがうれしかったです。

まとめ（司会進行：麻生水緒）

韓国の多様な人々、そして今勢いのあるフェミニストたちの発言を通して韓国社会を紹介したく、今回の“語り場”を企画しました。韓国人の多様な市民たちの暮らしや、韓国人の一般的な見方、考え方を知ることは、日韓の共通の歴史認識をもつ上で、欠かせない第一歩だと思います。

イルダの記事は、マイノリティー、少数者、当事者が、直接自分の体験を書いていることが多いので、まるで当事者と対話しているように受け取ることができ



上段右から2番目が麻生さん

ます。

参加者からは「目からうろこ」「知らなかった」という声が多かったです。「韓国の一般市民は反日種族主義^{*6}などの考えをどう思っているのか」という、他では質問する機会がなかった内容も、イルダの編集長の答えや意見交換の中で考えを共有することができました。また実際に女性運動をしている方の話を通して、日韓の比較ができました。

次年度の“語り場”は、「社会」を見ていくときの視点に「ジェンダー的視点」をもう少し入れてみたいと思います。イルダには平和問題、外国人移住者差別、兵役拒否、環境問題などの記事もあるので、女性問題にプラスして韓国人の市民活動を紹介していきたいです。

※1 ふえみん婦民主新聞：女性団体のふえみん婦民主クラブが発行する、女性の手による女性のためのメディア。ふえみん婦民主クラブは1946年に「戦後最初にできた大衆的な女性団体」で、平和、環境、ジェンダー、人権などの問題に取り組み、創立時から新聞発行を続ける。

※2 イルダ：フェミニズムの視点で当事者の声をていねいに扱うメディアで、「イルダ」の観点到同意する人であれば、経歴を問わず誰でも記者になることができる。2003年5月に設立され、商業広告をとらず、読者の自発的寄付により運営されている。「新しい女性の歴史を書く」「少数者側に立って意見を言う」「多様で前向きなフェミニズム論壇をつくる」「民主的な疎通と参加を土台に成長していく」をモットーにしている。韓国の昔の言葉で「イルダ」とは、「かなう」「なる」という意味。

※3 日韓合意：日韓両国が発表した日本軍「慰安婦」問題をめぐる合意。2015年、慰安婦問題を「最終的かつ不可逆的に解決させること」で合意。

※4 KBS：韓国放送公社。韓国の公共放送局。

※5 憲法裁判所：憲法裁判を行うために設置される裁判所。韓国では1987年改正の現行憲法によって設置された。

※6 反日種族主義：韓国の李栄薫^{イ・ヨンファン}らが著述し2019年に出版された書籍。日本の朝鮮統治時代に対する韓国人の通念を真っ向から否定している。

2022年4月9日開催

フォーラム

2021年度の日韓みらい若者支援事業の参加者が、活動で得た学びや感想を多くの方々と共有し、参加者間の交流を図るためのフォーラムを開催しました。

フォーラムには、これまでの活動で講師を務めた方々をはじめ、日韓関係に関心をもつ大学生や社会人など約40名がオンラインで参加。

各学習会と“語り場”に参加した学生4名と3回目の“語り場”の司会を務めた麻生水緒さんが、学んだ内容や感想などを報告しました。

第1回学習会「孫基禎^{ソンキジョン}の生き方から学ぶ—オリンピックとは？

日韓関係の再構築と今後の青年への期待—

発表者：曹基安^{チョウキアン}さん（ソウル国立大学修士課程）

私は韓国人として日本で生まれ育った在日コリアン3世です。小中学校は朝鮮学校で学び、早稲田大学を経て、現在、ソウル国立大学に留学しています。

学習会で寺島善一先生のお話を聞いて感銘を受けたのは、孫基禎選手が「恨^{ハン}の感情を押しこらし、終生、前を向こう」と発言したところです。これは今を生きる在日コリアンでも言えることではない、ましてや植民地時代を生きた人がこのような発言をするのは、本当に難しいことだと思いました。

今日は、在日コリアンに向けたヘイトスピーチ問題を事例に、共生社会について考えたいと思います。「共生」の定義は、文科省によると「(略)誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあい、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会である」となっています。はたして今の日本は共生社会といえるのでしょうか。



曹さんの発表

これは「ヘイトスピーチを伴うデモ等の認知度調査」(2017年、内閣府)ですが、こうしたデモを「知っていた」と回答した人は57.4%、「知らなかった」は42.6%でした。私は知っていた人がもっと多いと思っていたので、

なぜこのような深刻な社会問題を知らないのか、なぜなくなるのか疑問に思いました。

日本の統治時代が終わって70年以上経っても共生を阻んでいる原因は、メディアや国だけではなく、もっとミクロな市民レベルの潜在意識にあるのではないかと考えます。世論を変えるために若い世代ができることは、勉強ではなく学問。未来のためにどういう歴史解釈が必要か、どういう相互理解が必要かということ、私たちは常に問うていかなければなりません。

学習会に参加して、私たち世代が担うのは、今までの歴史を将来のために正しく解釈し、立場を超えて記憶を共有できるようにすることだと思いました。

学習会の講師を務めた寺島善一さん（明治大学名誉教授）のコメント

朝鮮半島の人たちが日本に対しても感情の中に、“恨”があると思います。なぜこの感情が芽生えたのか知るためには、歴史を学ばなければいけません。



寺島善一さん

孫さんはスポーツにおける南北問題に取り組みました。戦争状態ではスポーツどころじゃない。戦争がなくても貧しい国ではスポーツどころじゃないという実態があります。彼は南の国でもオリンピックを開催しよう、特にアフリカでやろうという運動に入っていました。

朝鮮半島の人たちには、日本から受けた過酷な弾圧、抑圧を乗り越えていこうという姿勢があります。これを踏まえて、その人たちと連帯するにはどうしたらいいか、私たちは考えていく必要があると思います。

対談「スポーツは国境を越えて～サッカーと安英学^{アンヨンハ}の半生を追って～」

発表者：小石川隼^{コイシカワハヤト}さん（中央大学国際経営学部2年）

私は小中高でサッカーをしていました。将来の夢は、世界で人権問題の解決に取り組むことです。まずは自分の国で起きている問題を知ろうと思い、この対談に参加しました。

対談を聞いて学んだことは2つあります。一つは、どんな困難にあってもあきらめず立ち向かう姿勢が大切だということ、もう一つはスポーツで人をつなぐことです。

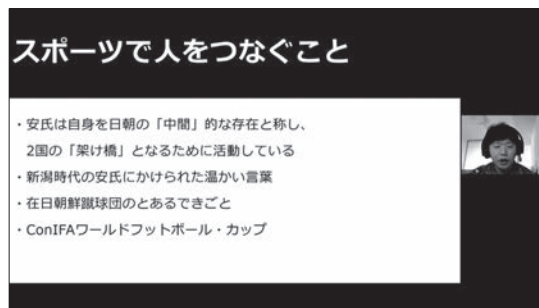
安選手はプロになるために大学浪人しました。入学までの1年間、サッカーの

練習を長い日には12時間やった。さらに受験勉強もした。とてつもない努力をされたんだなと思います。北朝鮮代表チームの合宿時も歓迎されなかったけれど、体力テストなどで結果を出してポジションを勝ち取っていった。自分もがんばらなければと思いました。

安選手がJリーグの新潟アルビレックスにいた時、北朝鮮が新潟で日本人を拉致したことを認めました。チームのウェブサイトには多くの中傷が届きましたが、サポーターが「政治とサッカーは別だ」と言うてくれたことが安選手の心に残っているそうです。これを聞いて、スポーツは人と人をつなぐんだなと思いました。いまだに在日コリアンへの差別が残っているのは事実です。互いを理解して、よりよい関係を築き、現状を変えていかなければならないと思います。

対談の登壇者、安英学さん（元Jリーガー）のコメント

事前に小石川さんが送った質問に、安さんからメールで回答をいただきました。



小石川さんの発表

一部を紹介します。

小石川：朝鮮籍の人々と日本人がよりよい関係を築くには何が大切でしょうか。
安：国籍に限らず、よい関係を築くには、互いを知ることが大切。子どもから大人まですべての人たちが出会い、つながる機会をつくるのが大事だと思います。

“語り場” 1 「韓国の歴史教科書を知ろう！」

発表者：篠田有希^{シノダ ユキ}さん（高麗大学）

私は日韓の近代史に関心があり、日韓の歴史を平等に学ぶために韓国に留学しました。今日は「教育における日本と韓国の歴史認識の違いについて」過去・現在・未来に分けて発表し、「日本人としてどう接するべきなのか」を考えたいと思います。

■過去：日韓教科書における史実とその記載について

日韓関係の歴史は、1910年の日韓併合以前、1910年～1945年の植民地時代、1945年以降の植民地解放後に分けられます。

韓国の歴史教科書では、1910年以前は、日本の併合に対する朝鮮人の抵抗と日本の帝国主義的経済力についての記述が見受けられました。1910年～1945年は、朝鮮人に対する日本政府の弾圧が主な内容です。1945年以降は日本政府の対応への批判が書かれています。一方、日本政府が試みた歴史問題解決の取り組みについての解説はありません。

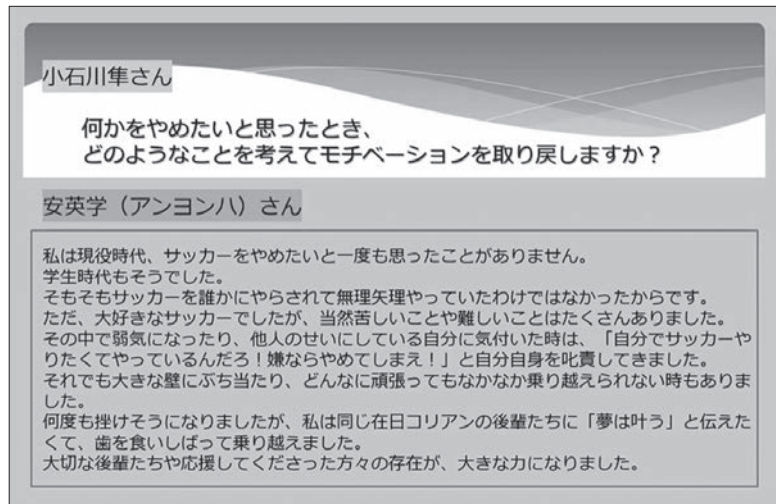
日本の教科書では、1910年以前の記述には、併合に至った道筋と朝鮮人の抵抗について、1910年～1945年は主に日本国内の戦争被害について書かれ、朝鮮人に対する弾圧や徴用工問題に関しては簡略化されています。1945年以降は特に記述はありません。

■現在：日韓教科書の違いとそれによって発生した日本人と韓国人の問題意識の差異について

韓国の教科書は、従軍慰安婦の体験談や植民地時代の教育などの説明が写真と共に載っており、植民地としての朝鮮をより身近に感じやすい構成になっていると思います。

韓国では大東亜戦争（アジア・太平洋戦争）の補償はまだ済んでおらず、日本は過去の清算をするべきであると多くの人が考えているようです。実際に私が韓国で受講した政治外交のクラスでは、韓国人学生全員が、韓国が主導権を握った、過去清算のための日韓友好条約の再締結が必要だと考えていました。

しかし日本人は、1965年の日韓基本条約（正式名称：日本国と大韓民国との間の基本関係に関する条約）の締結により、過去の清算は済んでいると認識して

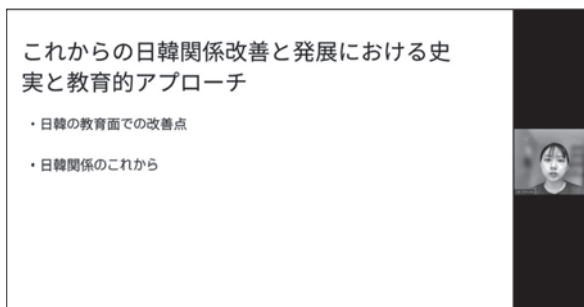


小石川さんの質問と安さんの回答（一部）

いるように思います。このように（教科書の記述の違いで）過去清算の認識の違いが生まれてしまいました。

■未来：これからの日韓関係改善と発展における教育的アプローチ

日韓は歴史認識のすり合わせができていません。日韓における歴史的共通認識の構築という教育的側面は大事な一歩。さまざまな人が日韓近代史に関心をもてば、日韓の溝が埋まる日は遠くないでしょう。



篠田さんの発表

“語り場” 1の講師を務めた上山由里香さん（韓国近現代史研究者）のコメント

現在、日中韓3国で歴史教材の共同編纂をする作業をしています。異なる歴史認識をすり合わせようと協力しています。各国の研究者がそういう志で集まっても、合意をつくることは難しい。自国中心にならざるをえないところを、話し合いながら歩み寄っています。

日本では手に入らない資料が韓国や中国では手に入ることがあり、違う見方があるのだということが共有されます。こういうことが国単位でできれば、歴史認識の違いにもう少し柔軟に対応できるのではないかと思います。

“語り場” 2「あなたの身近にある、日本と朝鮮半島との文化的つながり～K-POPの国の文化を知ろう～」

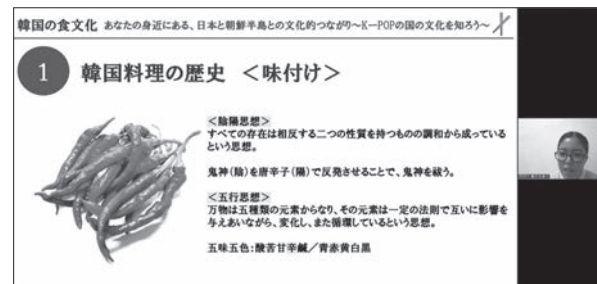
発表者：喜友名寧々さん（琉球大学人文社会学部3年）

“語り場” 2は、韓国の食文化、薩摩焼、石造物について4回の講座があり、私はその全てに参加しました。今、沖縄へのヘイトスピーチがネット上で散見され、日韓関係の諸問題と沖縄の政治につながりを感じたからです。

今日は食文化と石造物の回で学んだことを発表します。

互いの国の違いを知ることで新たな発見が生まれ、理解が深まるということを経験し、食文化の違いから日韓の違いをのぞこうとしたのが、韓国の食文化についての講座です。講師の八田さんのもくろみどおり、互いの国の違いを食文化の違いから観察できるということが私にも確認できました。韓国の唐辛子を使った料理や肉料理は、歴史が生んだ料理だということが印象深かったです。

朝鮮半島由来の石人像についての講座で学んだことは、朝鮮半島由来の石人像とはなにかということと、日本所在の朝鮮半島由来の文化財や、その返還に関する世界的な動きです。



喜友名さんの発表

日韓関係における諸問題として、一般的に慰安婦問題などが取り上げられますが、文化面における問題もあることに気付きました。こうした文化財返還というテーマが、日韓関係における外交改善の糸口になるという新たな発見がありました。

“語り場” 2の講師を務めた深田晃二さん（神戸「むくげの会」会員）のコメント

尼崎に住んでいた時、韓国民団のハングル教室に通い、在日コリアンの方々と親くなりました。恨についても直接肌で感じることができました。

かつてヨーロッパの国々は植民地から文化財をもち帰り、自国の博物館に収めました。今、インペリアルイズム(帝国主義)や植民地時代の清算が世界の潮流になっています。日本に渡った朝鮮半島の文化財の返還も今後、問題になってくると思います。今、私は日本にある石造物などの基礎データを集めており、返還に向けてどうしていくかも考えていきたいと思っています。

“語り場” 3「記事『^{イルダ}일다』を通して韓国の市民活動を知ろう」

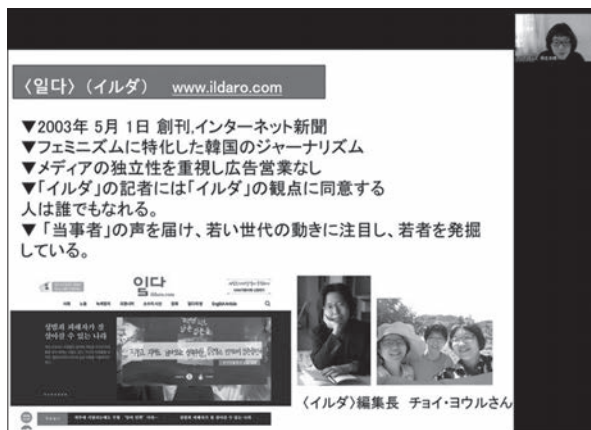
発表者：麻生水緒さん（Asia Commons 亜州市民之道 理事長）

イルダは2003年創刊のインターネット新聞で、フェミニズムに特化した韓国のジャーナリズムです。“語り場”では、イルダの記事を通して韓国の市民活動を知るという4回のシリーズを企画しました。

イルダは当事者として活動をしたり、声をあげたい若者の意見をどんどん取り上げ、社会を変えていこうとしています。“語り場”ではイルダの編集長チョイ・ヨウルさんに、記事を読んで感じたことや疑問に思ったことをぶつけてみようと考えました。

1回目と2回目で記事の紹介と社会的背景を説明し、参加者から感想や疑問を出してもらい、3回目でチョイ・ヨウル編集長に送る13の質問をまとめました。最終回にチョイ・ヨウル編集長の回答を読み、感想を話し合いました。

今日のフォーラムではスポーツも日韓をつなげるツールになるとのお話でしたが、ジェンダーというトピックも同じだと思います。チョイ・ヨウル編集長は、連帯のためには「対話」が必要だと言いました。韓国人の意見が反映されたイルダの記事を読みながら一緒に学習すれば、「対話」を深められるのではないかと思います。



麻生さんの発表

共同探求学習チームをつくりたい

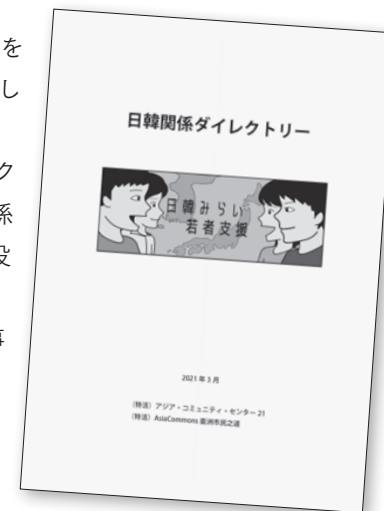
最後にオンラインで発表を聞いていた参加者から感想が寄せられ、ACC21の伊藤道雄代表理事からの「学生団体を中心に共同探求学習チームをつくったらどうでしょうか」という提案の後、麻生さんの閉会あいさつでフォーラムは幕を閉じました。



日韓関係ダイレクトリーについて

「日韓みらい若者支援事業」は、次の3点を目的に「日韓関係ダイレクトリー」を発行しています（原則として隔年発行）。

1. 日本国内の日韓関係団体の情報をダイレクトリー（住所氏名録）としてまとめ、関係団体間での情報交流や協力関係の発展に役立てる。
2. ダイレクトリーを「日韓みらい若者支援事業」共催団体のウェブサイトで紹介して社会と広く共有し、関係団体への理解増進と支持者の拡大に寄与する。
3. 「日韓みらい若者支援事業」に参加する若者の活動拡大とネットワークづくりにダイレクトリーを活用する。



ダイレクトリー発行に際しては、日本国内の日韓関係団体約140団体の基礎情報を集めた後、関係団体にアンケート調査への協力を依頼しました。その結果、回答があり、かつ掲載に同意した団体の情報と参考情報（第1版は学生団体・サークル、韓国・朝鮮語専攻がある大学、美術館、博物館、資料館、文献リスト）をダイレクトリーに掲載しています。

第1版：2020年3月発行

第2版：2023年3月発行（予定）

ダイレクトリー掲載ウェブページ（ACC21 ホームページ内）：

<https://www.acc21.org/action/nikkan/>



参加者募集、ご協力のお願い

学習会、“語り場”などに参加しませんか？

この冊子で紹介している学習会、“語り場”は、皆さまの参加をお待ちしています。

これまで、K-POPや韓流ドラマのファンになったことがきっかけで、この学習会に参加した方々も数多くいます。学習会に参加することで、日韓関係に関わる問題を知り、さらに“語り場”で特定のテーマについて知識を深めることができます。

学習会や“語り場”では、都度参加者を募集していますので、下記の事業関連ウェブページをご覧ください。

日韓関係団体の皆さまへ

「日韓みらい若者支援事業」では、日韓の市民交流・協力活動に取り組んでいる団体の活動と経験を共有し、これらの団体に参加する市民を増やすことを目指し、「日韓関係ダイレクトリー」を発行しています。日韓関係団体の皆さまには、「日韓関係ダイレクトリー」掲載へのご協力と、学習会、フォーラムへのご参加をお願いしています。

ご寄付・ご協力のお願い

～これからの社会を担う日韓の若者たちが、共通の歴史観を持ち、
両国社会の未来を切り開いてゆけるように～

日本と韓国の若者たちが新しい未来を創っていくために、お力を貸してください

この事業へのご寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。ご寄付の金額は自由です。
この活動の資金はACC21の「アジア若者みらい基金」で管理し、使途などについて定期的にご報告します。

ゆうちょ銀行 振替払込

方法1 赤色の専用振替用紙をご利用ください。
送金手数料が無料になります。
方法2 郵便局の窓口またはゆうちょ銀行のATMで、
次の口座にお振り込みください。
口座番号：**00170-6-674008**
加入者名：**ACC21「アジア若者みらい基金」**

クレジット決済

ご寄付の手続きを行うページ：
<https://www.acc21.org/action/nikkan/>



銀行振り込み

ゆうちょ銀行 **〇一九（ゼロイチキョウ）支店（019）**
口座番号：**0674008（当座預金）**
口座名称：**ACC21「アジア若者みらい基金」**

※銀行振り込みでご寄付をされる場合は、Email または FAX で、ACC21 まで振込者のお名前、ご住所、「日韓みらい若者支援事業」への指定寄付である旨をお知らせください。

メール送信先：kifu@acc21.org FAX: 03-3945-2692

共催団体について

●認定 NPO 法人アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21)

アジア 12 カ国の 100 を超える現地 NGO とのネットワークを基盤に、2005 年からアジアの貧困削減に取り組む国際協力 NGO です。

「日韓みらい若者支援事業」（2019 年度～）の他、路上で暮らす子ども・若者の支援（フィリピン）、国際協力を携わる人材の育成、アジアの現地 NGO への助成を行う公益信託の事務局活動などに取り組んでいます。アジアの貧困問題や、現地での活動に関わるさまざまなイベントを実施しています。



Instagram (@acc21ngo) Twitter (@ACC21_NGO) Facebook (@acc21.org)



● NPO 法人 Asia Commons 亜州市民之道（アジアコモンズ）

アジア各地の公民（市民および農民）、民間団体、文化・学術分野、地方行政などと連携し、アジア各地における個人に根ざした交流・協力関係が築かれるための事例紹介活動、国際協力、交流・公演などのイベント、韓国語講座を行っています。

地域・個人の国際交流を推進し、参加者の個人の尊厳への意識と異文化理解の心を育み、アジア市民としての連帯や豊かな生き方を探していくことを目的に活動中。

「韓国語があるちょっと幸せな暮らしの案内人」として、対面、オンライン講座を実施しています。

・韓国語オンライン講座は下記で実施中。

<https://hanmaum-sayama.com/teacher/>

